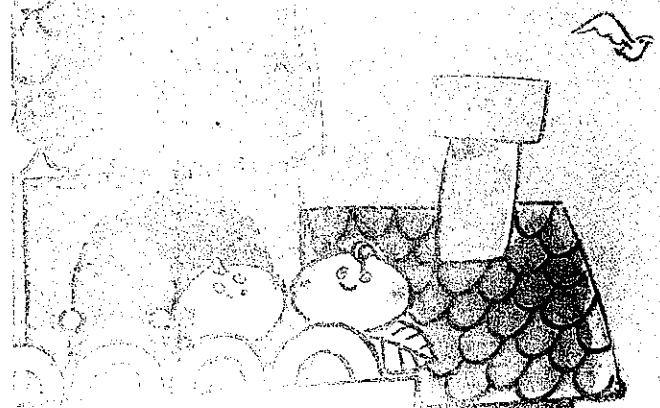


ミシンの部品名称とその働き……2
 こんな付属品がついています……4
 お縫いになる準備はこんな順序で6

《準備してください》……7～18

電源をつなぎましょう……8
 照明ランプをつけましょう……9
 針と糸の選びかた……10
 針は正しくとりつけましょう……11
 ボビンケースをとりだしましょう……12
 ボビンに下糸を巻きましょう……13
 ボビンケースにボビンを入れて……14
 さらにボビンケースを

中ガマに入れましょう……15
 上糸のコースは
 正しくかけましょう……16
 つぎに下糸を引きあげます……18

《直線縫いをしてみましょう》19～25

縫い目のかえかたと返し縫い……20
 送り歯の上げかた下げかた……21
 糸調子の調節のしかた……22
 さあ…縫ってみましょう……23

《ジグザグ模様縫いのしかた》26～37

万能ダイヤルのはたらきは……27
 振巾調節レバーと

振巾制限ツマミのはたらきは……28
 送りダイヤルのはたらきは……29
 手動ジグザグ模様縫い……30
 自動ジグザグ模様縫い……32

♥カムの交換……32
 ♥模様カムの種類……33
 二本針の縫い方と種類……34

《応用縫いのいろいろ》……38～55

ボタンホール……39
 ボタンつけ……42
 アププリケ……44
 コードししゅう(ひもつけ)……45
 三ツ巻縫い……46
 ファスナーつけ……48
 キルティング……49
 ステッチ(定規の使いかた)……50
 ししゅう縫い(手動)……51
 盲縫い(くけ縫い)……52
 伸び縮みする布に縫うとき……54
 フラワーステッチ(花模様縫い)……55

《お手入れしてください》……56～63

注油の方法……57
 外装はこんな手入れを……59
 送り歯の掃除……60
 カマの分解と手入れ……61

《準備の補足》……64～67

頭部のとりつけかた……64
 ベルトのかけはずし……65
 モーターのとりつけかた……66
 コントローラーのあつかいかた……67

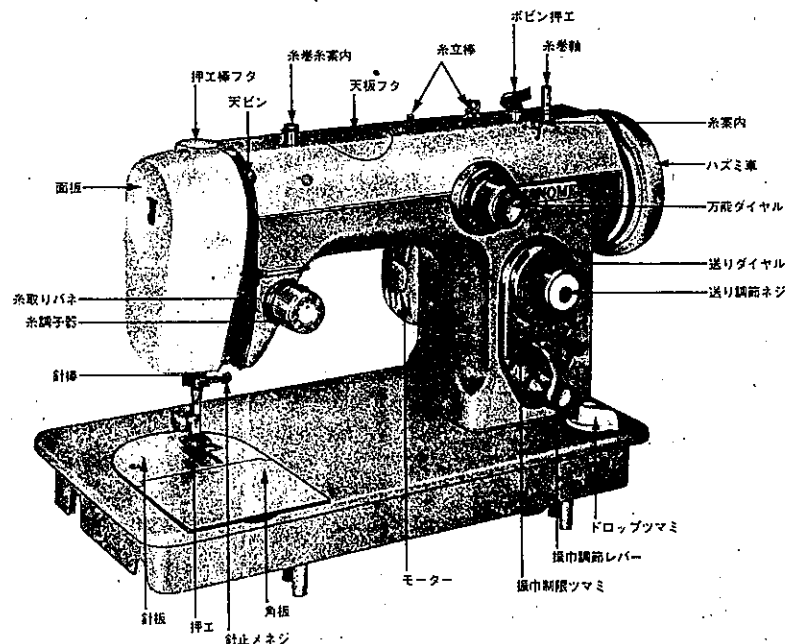
《やさしいミシンの調整》……68～71

ボビンに正しく
 糸が巻けないときは……69
 ボタンホールの調整は……69
 ミシンの具合が悪くなった
 原因となおしかた……70

*ハイドリームセットの早見表……72
 *あなたとご家族の寸法表……73

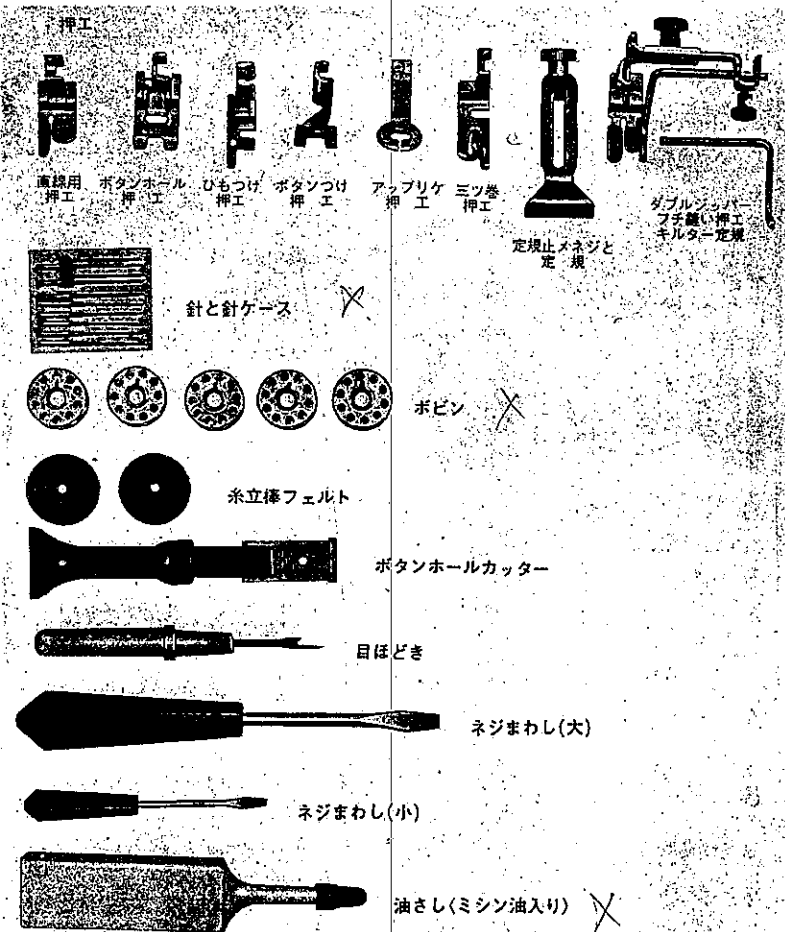
●ミシンの部品名称とその働きは……

あなたのミシンを正しく使いこなしていただくために、ミシン操作に必要なそれぞれの部品の名称とその働きをお伝えしましょう。この本の使いかたの説明で、どの部分かわからないとき、このページをごらんください。



部品のなまえ	そのおもな働き
糸立棒 (糸立台)	糸巻を立てる棒、二本針のときは二つの棒を使う。
糸巻糸案内	下糸をボビンに巻くとき糸をかける。
糸巻軸	下糸を巻くときボビンをセットするところ。
ボビン押工	下糸がボビンに巻きすぎないように押える。
糸案内	上糸を針までスムーズにみちびくところ。
糸調子器	糸調子を上糸で調節するとき使う。
糸取りバネ	上糸のたるみを、引っ張るバネ。
アーム糸案内	上糸をかける。
天秤	中釜の動きにともなって上糸を供給するところ。
天板フタ	ミシン上部を保護し、カムを交換するところ。
押工棒フタ	押工のはたらきをする部分のカバー。
面板	針棒上部と照明ランプを保護している。
針棒	針をとりつけ、針といっしょに動くところ。
針止めネジ	針を針棒にしっかりとりつけるためのネジ。
押工	布を上から押えて、布送りをスムーズにする。
針板	針が下がる時布を支える板で、針落ちの穴がある。
角板	ボビンのだし入れに開ける。
万能ダイヤル	基線の変更、二本針の振巾を調節する。 ボタンホール、カム交換のとき使う。
送りダイヤル	布の送り(縫い目)の調節をする。 返し縫いのときここを押す。
送り調節ネジ	ボタンホールの縫い目の調節をする。
振巾調節レバー	ジグザグ縫いの振巾の調節をする。
振巾制限ツマミ	振巾調節レバーの動きを制限する。
ドロップツマミ	送り歯をあげたり下げたりする。
モーター	ミシンを動かす原動力。

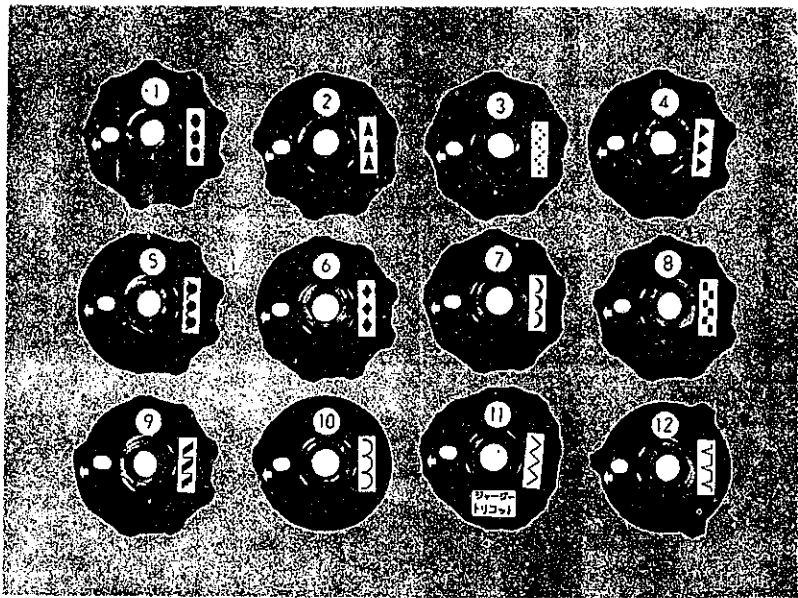
●こんな付属品がついています



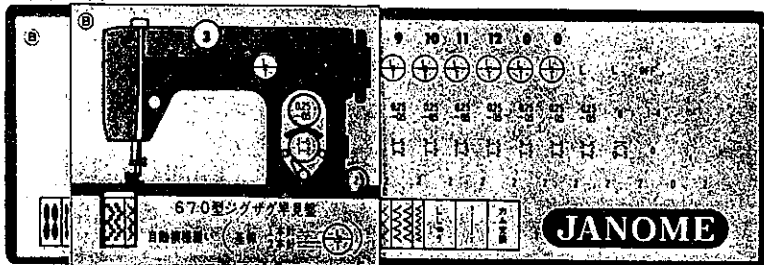
あなたのミシンには、これだけの付属品がついていますから、それぞれ用途に応じて、正しく活用してください。

※早見盤の活用

ご希望の縫いかたの模様を、早見盤の左下の四角の小窓に合わせれば、ミシンの図の丸窓に数字がでできます。それをミシンの各目盛などにセットしてお縫いください。



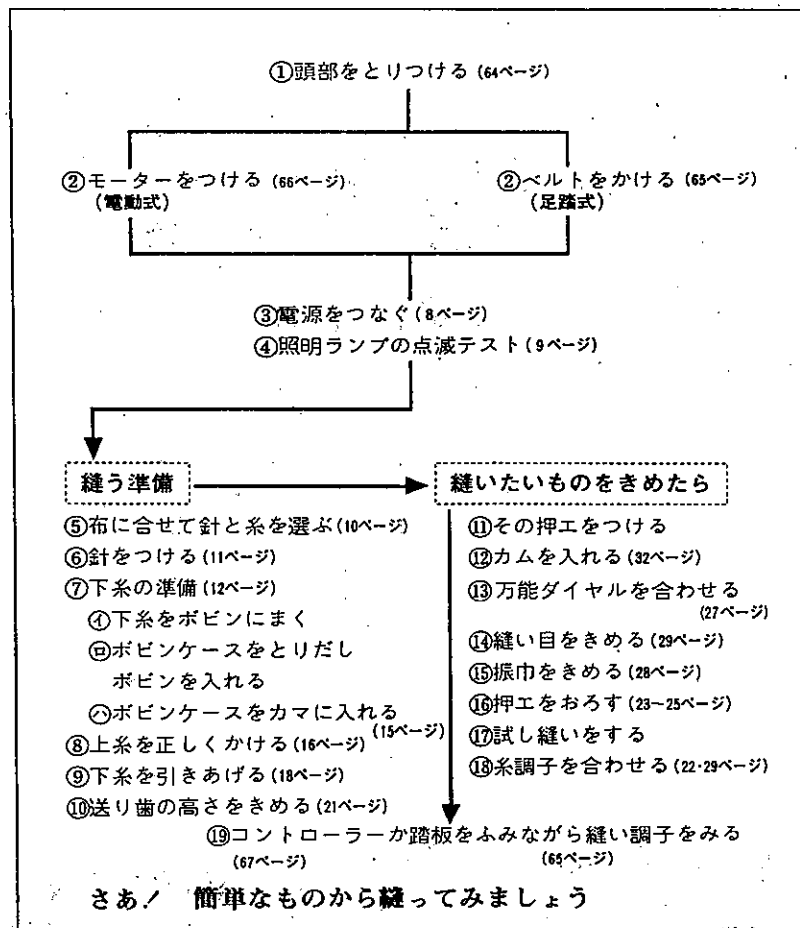
ジグザグ早見盤



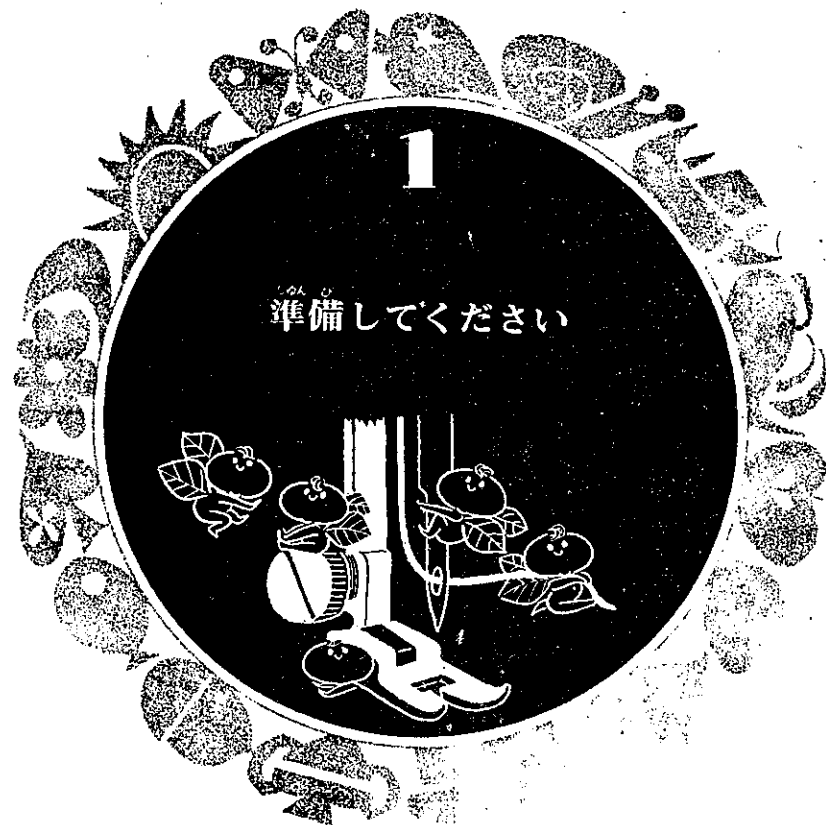


●お縫いになる準備はこんな順序で……

お縫いになる前のミシンのセットは、なれば簡単ですが、正しく手ぎわよくなさるために、まずその順序をおぼえましょう。



♥くわしくは次のページから順を追ってどうぞ！



頭部とモーターのとりつけかた、踏板とコントローラーの踏みかたなどは64ページ～67ページをごらんください。ここでは大切な針と糸のとりつけかたをよくおぼえましょう。

電源をつなぎましょう



電動式ミシンは電灯線から動力をとります。足踏ミシンも同じようにして照明ランプをつけます。

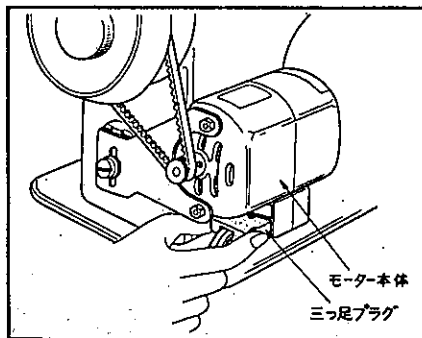
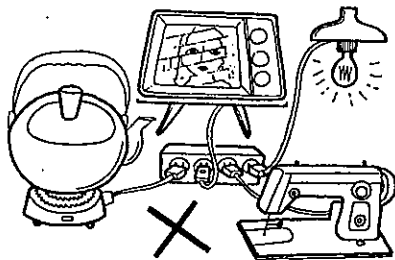
♥テーブル型の場合は……

- 1 テーブル右側のコンセントに丸型プラグをさしこみ (2 図)
- 2 コードの端の電源プラグは電灯線のコンセントにさしこみます (3 図)

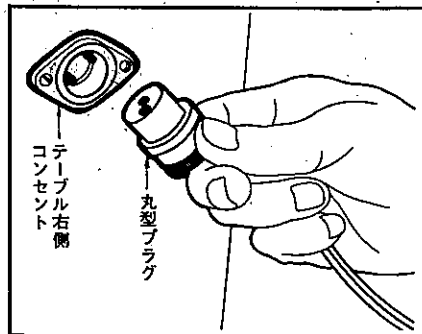
♥ポータブル型の場合は……

- 1 コントローラーの三つ足プラグをモーターにさしこみ (1 図)
- 2 コードの端の電源プラグは電灯線のコンセントにさしこみます (3 図)

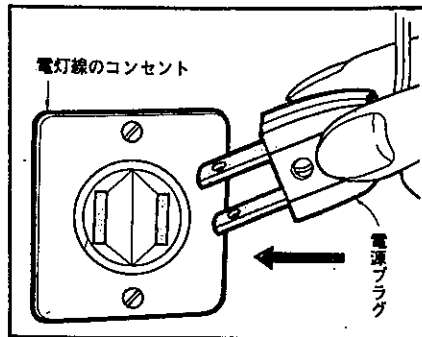
※電動式ミシンは下図のように、タコ足状態に電源をとるのはおやめください。電源が過熱したり、他の電気器具の調子を悪くします。



1 図 モーターに三つ足プラグをつなぐ



2 図 テーブルの側面にコードをつなぐ



3 図 電灯線に電源プラグをつなぐ

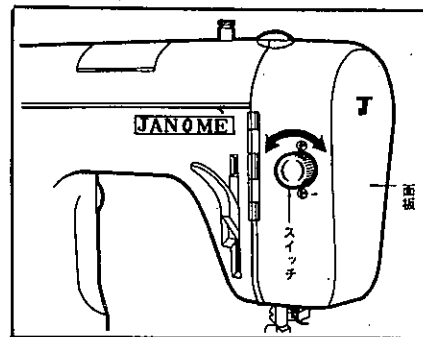
照明ランプをつけましょう



照明ランプは面板内部についていて針先を明るく照らします。

♥照明ランプの点滅は……

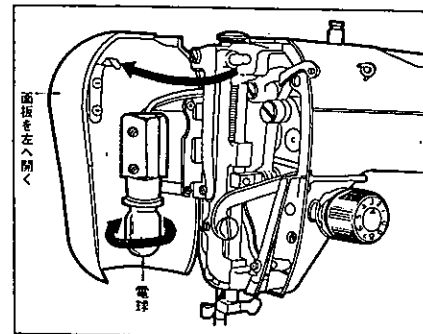
スイッチツマミは左右どちらへまわしても点滅します。



4 図 左右どちらにまわしても点滅する

♥電球が切れたときは……

電球が切れた場合は、面板を左側に開いて、電球を左にねじってはずし、新しいものととりかえます。



5 図 電球がきれたら面板をあけてとりかえる

※電球(照明用100V-12W)はジャノメ直営支店で求めください。

針の準備

針と糸の選びかた

美しく縫いあげるためには、布地の種類によって、下表の番号の針と糸を選んでください。

6図 ♣ 布地と針と糸のつながり

布地の種類	針の番号	糸の番号
ごく薄いもの＝絹、デシン、ボイルモスリンなど伸縮性化繊地など	9番（細い）	100～150番 カタン糸 細絹糸
薄いもの＝キャラコ、サラシ、木綿薄地木綿類 伸縮性化繊地など	11番（やや細い）	80～100番 カタン糸 絹糸
普通のもの＝普通木綿、ネル毛織物、セル、ラシャ類	14番（普通）	50～80番 カタン糸 絹糸
厚いもの＝厚い毛織物、厚手の木綿類	16番（太い）	40～60番 カタン糸
ジャージ、トリコット 伸縮性の化繊地など	化繊用 14番	50～100番 ナイロンテロン 100～150番 絹糸 カタン糸

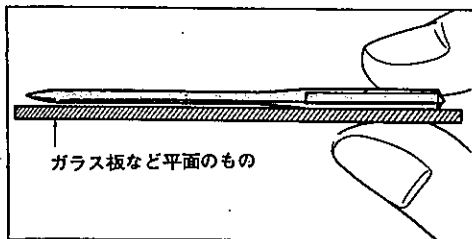
★針の番号(太さ)は針の下図の位置についており、数字が多くなれば太くなります。

※このミシンに使用する針の種類は、
※伸縮性の化繊地（ジャージトリコット HAXIまたは家庭用の何番といつてなど）には紫色印の針をご使用ください。お求めください

★糸の番号(太さ)は1ポンドの糸の長さが768mあるものを1番手とし、太さがきめられています。番手数字が多くなれば、その割合で細くなります。

★針の曲りを調べましょう

ガラス板などに針の平面をあて、明かるところですかしてみて、完全な針はスキマが平均に針先まで明るくみえます。

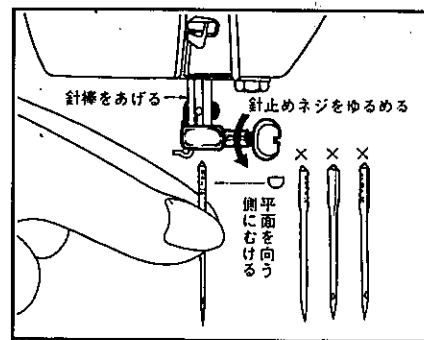


7図 針の曲りのしらべかた



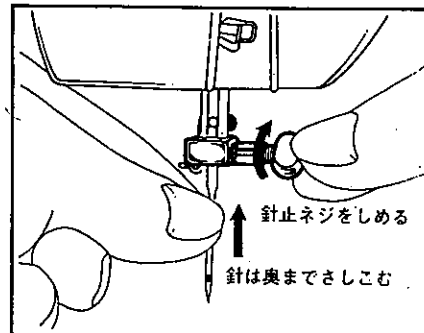
針は正しくとりつけましょう

- 1 ハズミ車を手前にまわし針棒を最上部にあげ、
- 2 針止めネジをゆるめ
- 3 針の平らな面を向う側にむけて (8図)



8図 針棒をあげ針の平面を向う側にむけて……

- 4 深く上に突きあたるまでいっばいにさしこみ
- 5 針止めネジをかたくしめます。



9図 最上部までさしこみ針止めネジをしめる

縫うとき針をいためないようにするには……

※針の向きを正しく、針棒の奥までいっばいにさしこみ、かたくしめておかないと、縫っているとき針がぬけたり折れたりします。縫いはじめには、ハズミ車をまわして針先が針穴の中心に落ちるか調べてみましょう。

※布地をミシンから引き出すとき、必ず天秤を最上部にあげて、押工の下側より向う側へ糸を引き出すようにしてください。また運針中は無理に布を引っばらないよう注意しましょう。

※仮縫いした時、ピンなどを残さないよう注意してください。



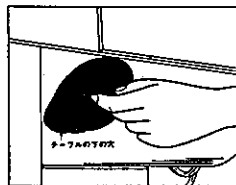
下糸の準備

まずボビンケースをとりだしましょう

- 1 ハズミ車を手前にまわし、針を最上部にあげ (10図)
- 2 角板をあげます。

※針をあげないとボビンケースはとりだせません。

♥テーブル型のときは……

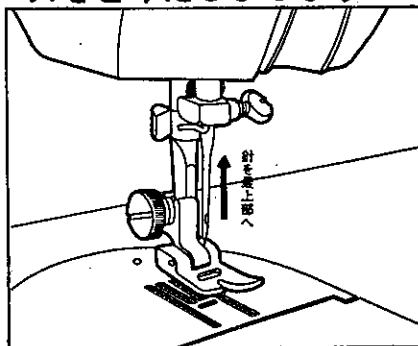


- 3 角板の穴からのぞきながら、テーブルの下側から手をいれて (上図)
- 4 ボビンケースのつまみを指で直角になるぐらいまでおこしてとりだします。 (11図)

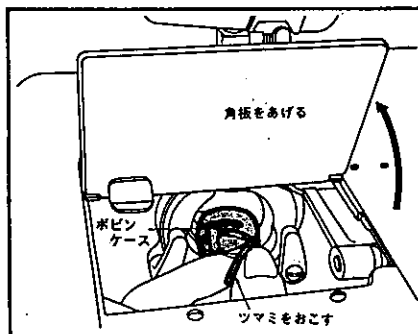
※つまみをおこさないで、いくら引っ張ってもとりだせません。

♥ポータブル型のときは……

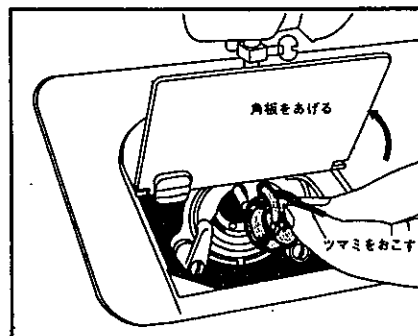
- 3' 角板の穴から手をいれて、つまみをおこしてとりだします。 (12図)



10図 針先を最上部まであげる



11図 テーブル型は下側から手を入れて

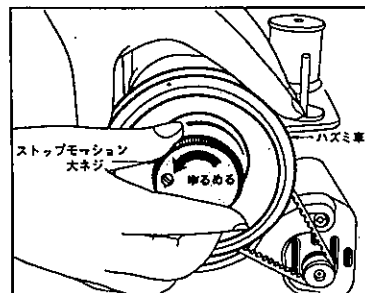


12図 ポータブル型は上から手を入れて



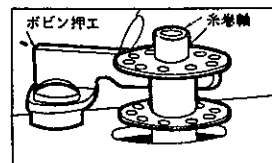
ボビンに下糸を巻きましょう

- 1 ハズミ車をおさえて、ストップモーション大ネジをゆるめ、ハズミ車だけがカラまわりするようにします。 (13図)
- 2 糸立棒に糸巻をさし、糸を天板糸案内 (A) から糸巻糸案内 (B) の順に通して、 (C) までもってきます。 (14図)

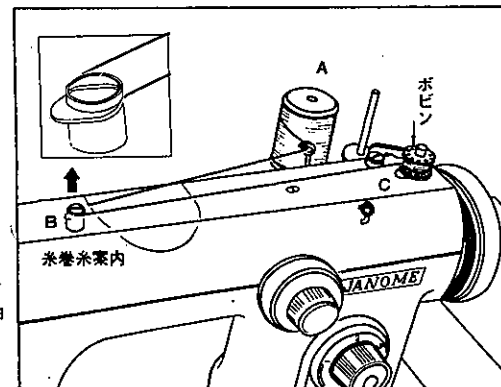


13図 ストップモーション大ネジをゆるめる

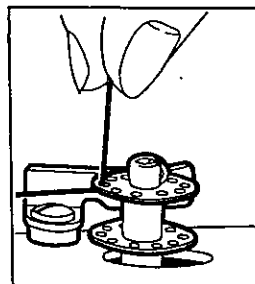
※この巻きかたで下糸がボビンに正しく巻けないときの調整は69ページをご覧ください。



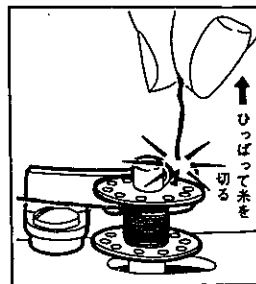
15図 3 ボビンの切ミソを糸巻軸に合わせボビン押エをボビンにはめ



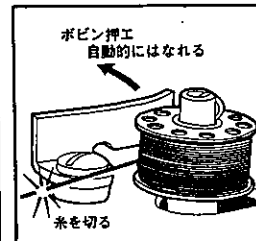
14図 下糸を巻くときの糸のかけかた順序



16図 4 糸の先をボビンの上側のふち金の穴に内側から通し



17図 5 糸の先をつまんでハズミ車をまわし、糸が少し巻けたら切ります。

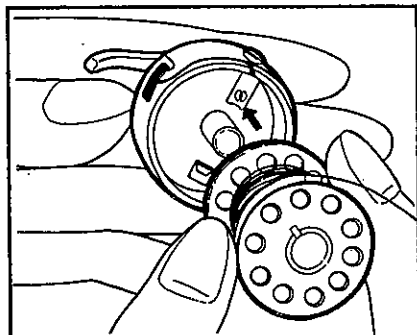


18図 6 ミシンを運転し、ボビンに下糸がいっぱいになると、ボビン押エがしぜんにはなれます。



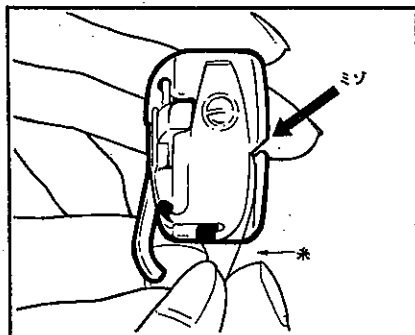
ボビンケースにボビンを入れて……

- 1 糸が巻けたらボビンをボビンケースに入れます。(19図)



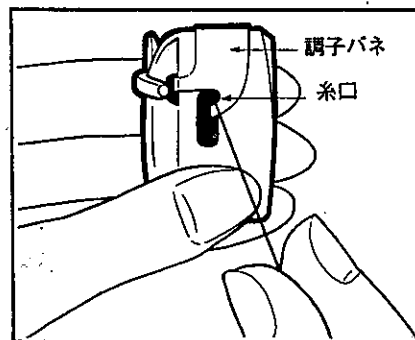
19図 ボビンをボビンケースに入れる

- 2 ボビンケースの端のミゾに糸を通し、20図のような方向に糸を引っばります。



20図 ミゾに糸を通して引っばる

- 3 糸を引くと調子バネの下に通ってボビンケースの糸口へ自然に糸が通ります。(21図)



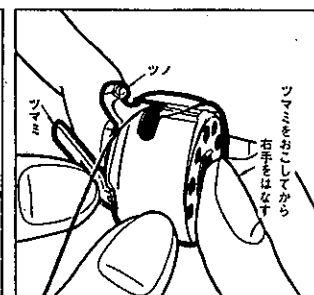
21図 調子バネの下から糸口に糸が通る



ボビンケースを中ガマに入れましょう



22図 ボビンがぬけないよう押える



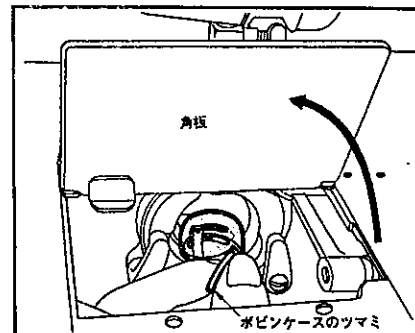
23図 ツマミをいっぱいにおこしてもツマミをいっばいにおこしてもボビンはぬけだしません

- 1 ボビンケースからボビンがぬけ出ないように指で押えて (22図)

- 2 ツマミをいっぱいにおこし、糸は10cmほど引き出しておきます。(23図)

※ツマミをおこすと指で押えなくてもボビンはぬけだしません。

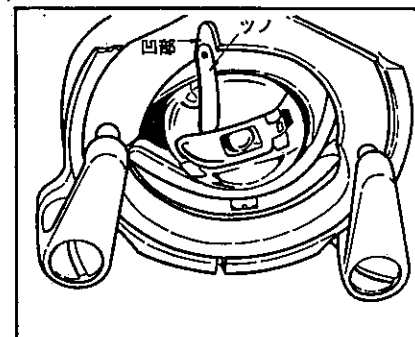
- 3 とりだした時 (12ページ参照) の逆の順序で、カマの凹部にツノがはまるようさしこみます。(24図)



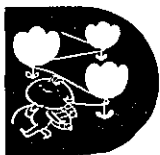
24図 ツマミをもって中ガマに入れる

- 4 ボビンケースが中ガマにしっかり入ったら、ツマミをはなします。(25図)

※ポータブル型は上から、テーブル型は下から手を入れます。



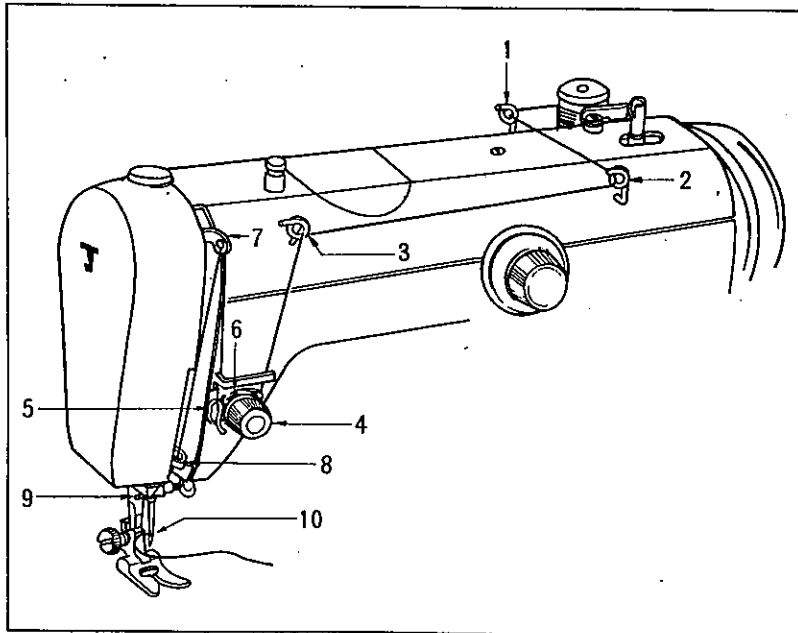
25図 ツノをカマの凹部にきちんとはめる



上糸のかけかた

上糸のコースは正しくかけましょう

つぎは上糸の準備ですが、
下図のように正しい順序でか
けてください。



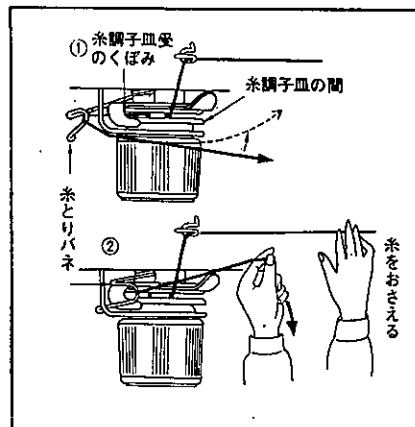
26図 上糸をかけるコースの順序

- ①天板糸案内に糸コマから糸を通し
- ②③天板糸案内に順に通し
- ④糸調子皿の間に糸をまわしながら
- ⑤糸取りバネと一しょに(27図-①)
- ⑥糸調子皿受のくぼみに糸が引っかかるまで引き上げます(27図-②)
- ⑦天秤の穴に右から左へ糸を通し
- ⑧面板糸案内から
- ⑨針棒糸案内へと通して
- ⑩針の穴に手前から向う側へ糸を通します(29図)

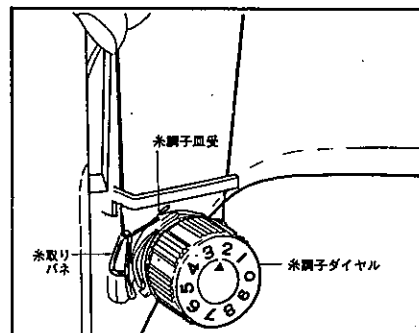
♥上糸をかけるとき
まちがえやすいところ

●糸調子器のところは……④⑤⑥

- 1 糸コマを右手でまわらないよう押え、左手で糸を糸調子皿受の間に右からかけて
- 2 糸取りバネにかけたまま、手前から右側へ引っぱれば、しぜんに糸調子皿受のくぼみにかかります。



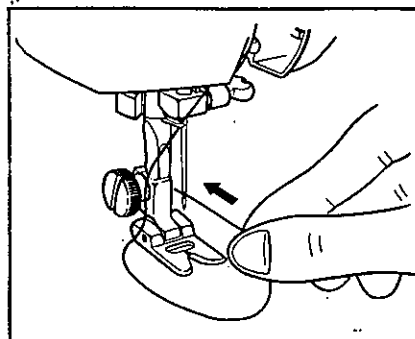
27図 ④→⑥のかけ方(上からみたところ)



28図 ④→⑥に上糸をかけ終えたところ

●針へ糸を通すところは……⑩

- 1 針棒糸案内⑨から糸を手前から針の穴へ通して向う側へだします。
- 2 糸の端は15cmぐらい引き出します。

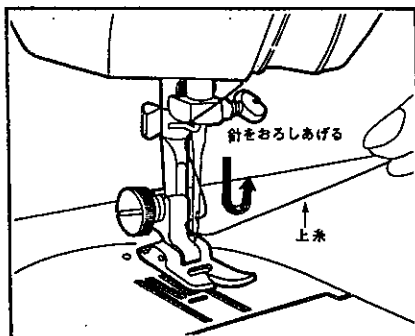


29図 針穴へ糸を正しく通す



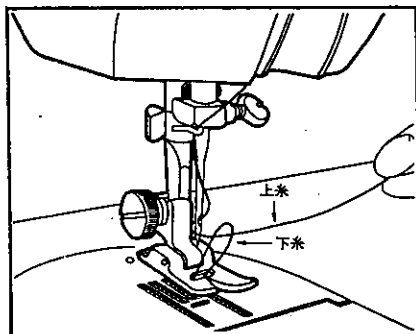
つぎに下糸を引きあげます

- 1 上糸の端をかるく持ち、ハズミ車を手前に静かに1回転させ、再び針が最上部まであがりきったところで止めます(30図)



30図 左手で上糸をかるく押える

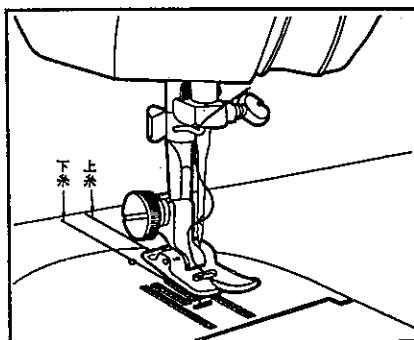
- 2 上糸を静かに引くと、上糸は下糸をとらえて針穴から輪になって出てきます。



31図 一回転後針を最上部にあげ上糸を引く

- 3 上糸と下糸をそろえて、押工の割れ目の間から向う側におきます。

※引き出した上下糸は必ず向う側におかないと、糸がからみます。

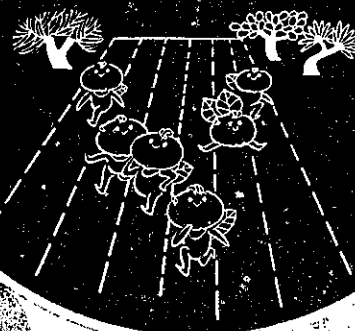


32図 押工の割れ目から糸を向う側へおく

これで準備はすべてOKです。

2

《直線縫い》をしてみましょう



いよいよこれから縫いたの練習です。このミシンはジグザグ縫いばかりでなく、直線縫いも縫えます。まず簡単な直線縫いからマスターしましょう。



縫い目のかえかたと返し縫い

送りダイヤルの操作で、縫い目が変化し、送り調節ができます。

直線縫い

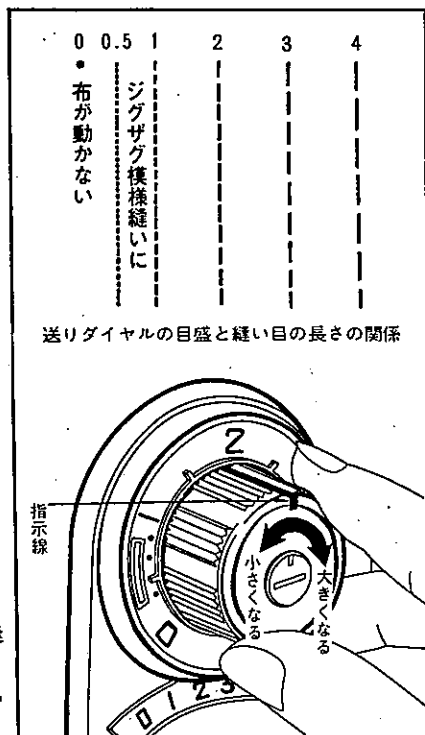
♥縫い目のかえかたは……

送りダイヤルの目盛の数字は、縫い目の長さを、だいたいミリメートルで表わしています。ご希望の縫い目を指示線に合わせてください。

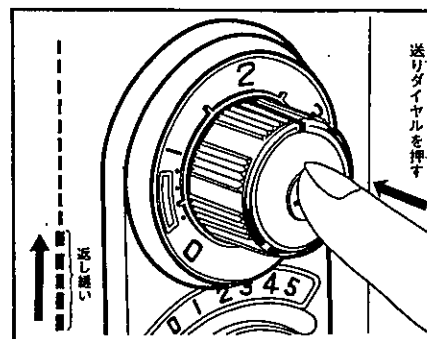
♥返し縫いをするには……

送りダイヤルをいっばいに押している間は、普通縫いと同一縫い目の返し縫いができます。縫いはじめや縫いおわりを丈夫にするのに使います。

※送りダイヤルは、必ず奥に突きあたるまで押してください。



33図 縫い目の大きさと送りダイヤルの関係



34図 返し縫いは送りダイヤルを押す



送り歯の上げかた下げかた

(ドロップフィード装置)

送り歯の高さを調節するには、ドロップフィード装置を使います。

ドロップツマミの数字と指示点を合わせれば、三段に送り歯の上げ下げができます。

②に合わせると……

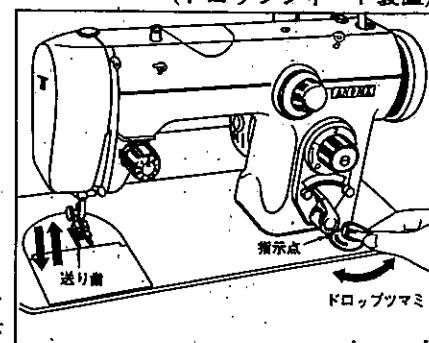
送り歯は針板の上にて、布送りがスムーズにできます。普通の厚さの布地のときに使います。

①に合わせると……

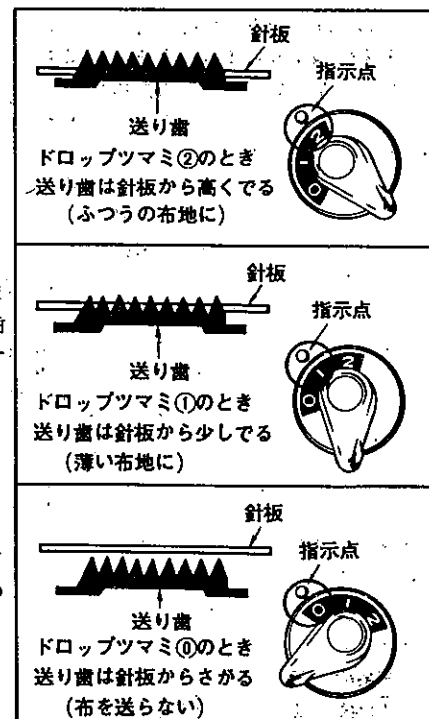
送り歯は針板の上に少しでています。絹地などの薄物のとき、送り歯が布地に歯のあとがつかぬようにするために使います。

③に合わせると……

送り歯が針板の下までさがって、布を送りません。ししゅう縫い、フラーステッチ、ボタンつけ、止め縫いなどのとき使います。



35図 ドロップフィードと送り歯の位置



36図 用途によって三段に上げ下げする

直線縫い



糸調子の調節のしかた

♥正しい糸調子とは……

美しくスムーズに縫うためには、糸調子が正しく調節されていることが大切です。直線縫いのときは、上下の糸が布地のまんなかでクサリ型に交差しているのが正しいです。

※ジグザグ縫いのときの糸調子は、29ページをごらんください。

♥糸調子が悪いときは……

●糸調子器で上糸を調節する

上糸の調子が強すぎるとき（37図のB）は布の表面に上糸が直線になってしまいます。そのときは糸調子ダイヤルを左にまわします。

下糸の調子が強すぎるとき（37図のC）は布の裏側に下糸が直線になってしまいます。そのときは糸調子ダイヤルを右にまわします。

糸調子ダイヤルの目盛

0 ← → 9

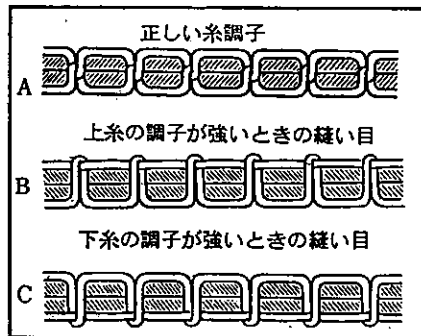
上糸が弱くなる 上糸が強くなる

●ボビンケースで下糸を調節する……

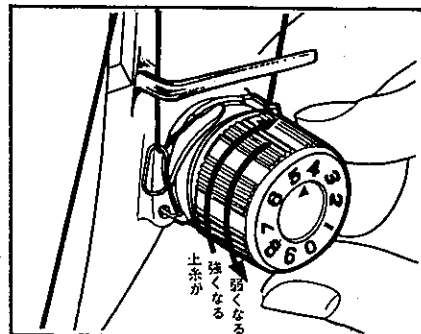
ふつう糸調子は糸調子器を調節するだけでよいのですが、つごうで下糸を調節するときは、図のようにボビンケースの調子バネの小ネジをまわして調節します。

上糸の調子が強すぎるときは、わずかに右へまわして調節します。

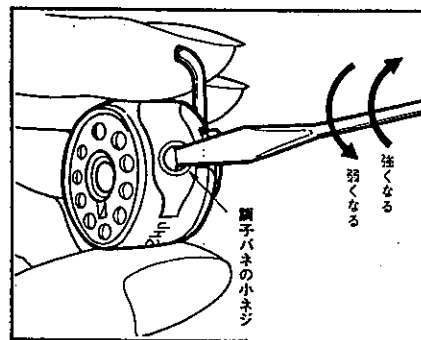
下糸の調子が強すぎるときは、わずかに左へまわして調節します。



37図 糸調子の正しいものと悪いもの



38図 糸調子ダイヤルを左右にまわして……



39図 ボビンケースの調子バネネジをまわして……



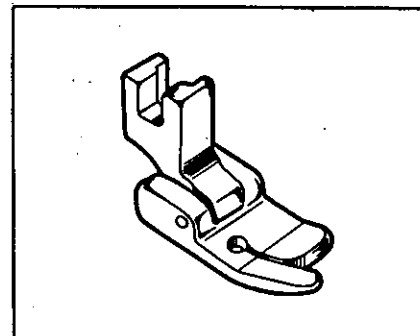
さあ……縫ってみましょう

◆直線縫いのセットは……

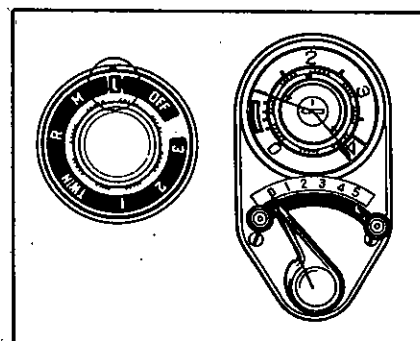
押エ……………直線用押エ
カム……………基本カム①
万能ダイヤル……………L
送りダイヤル……………1～4
振巾調節レバー……………0
ドロップツマミ……………2

※直線縫いの場合は、直線用押エにかえますがジグザグ押エでもお縫いになることが出来ます。

※カムの交換のしかたは32ページをごらんください。万能ダイヤルと振巾調節レバーの使いかたは27～28ページをごらんください。



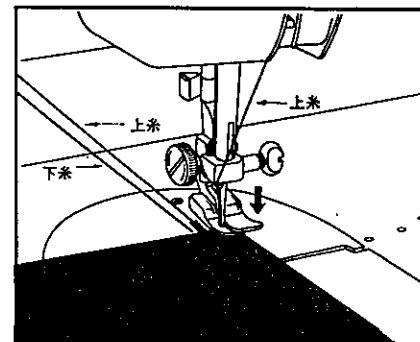
40図 直線用押エ



41図 直線縫いのときの条件

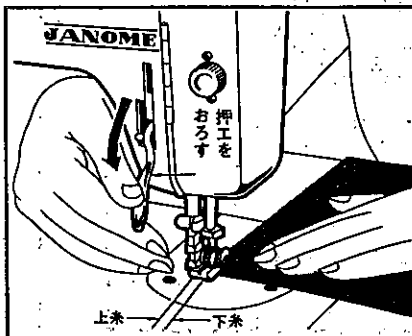
♥縫いはじめには……

1 ハズミ車を静かに手前にまわし、針を布の縫い始めの位置に突きさします。



42図 ハズミ車をまわし針先を布にさす

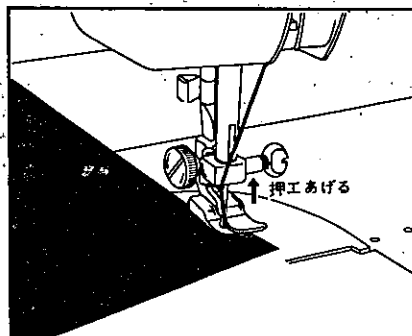
2 押工をおろし運転を始めます。布は送り歯の運動でせんに送られますから、手は布の進行方向を案内するよう軽くそえます。



43図 押工をおろして……

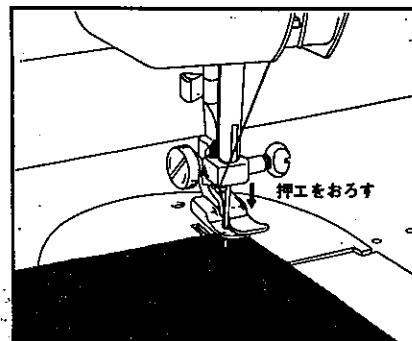
♥ 布の角を縫うときは……

1 針が布に深くささっているとき運転を止め、押工を上げます。



44図 針がささっているとき運転をとめる

2 針を中心にご希望の方向へ布をまわし、ふたたび押工をおろして縫いはじめます。

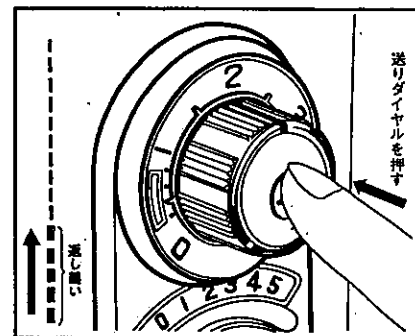


45図 針を中心にして布をまわす

♥ 縫いおわりには……

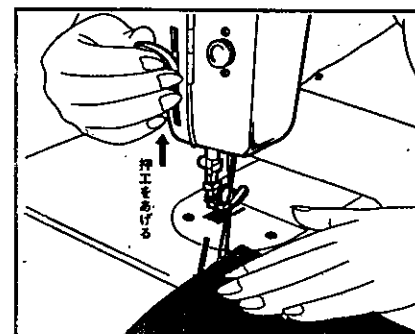
1 縫い終わったら、送りダイヤルを押し、返し縫いをすると、糸がほつれません。

※返し縫いのしかたは20ページをご覧ください。



46図 返し縫いをする

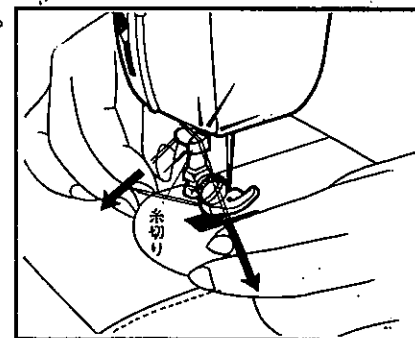
2 布をはずすときは針が最上部にあがったとき、押工を上げて、布は必ず向う側へ静かに引きだします。



47図 布は必ず向う側に引き出す

3 糸切り又はハサミで糸を切ります。

※この時上下糸は、つぎの縫いはじめの用意に15cmほど残します。



48図 引き出したら糸切りで糸を切る



つぎは楽しいジグザグ模様縫いをしてみましょう。
このミシンはフルオートマチックジグザグミシンですから、基線や振巾、縫い目をさまざまに変化させ、カムをとりつけることによって、美しい模様を縫いあげます。

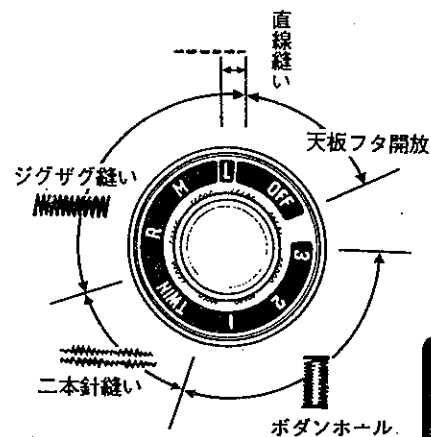


ジグザグ模様縫いの基本

万能ダイヤルのはたらきは……

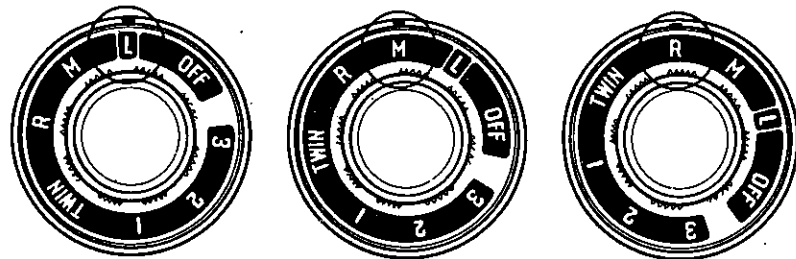
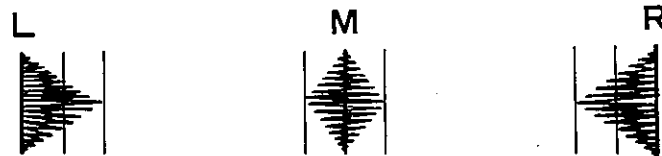
万能ダイヤルは、それぞれの目盛を指示線に合わせると49図のように四つのはたらきをします。

- ①基線をかえるとき……L・M・R
- ②ボタンホールかがり……1・2・3
- ③二本針縫いのとき……TWIN
- ④カムを交換するとき……OFF



49図 万能ダイヤルのはたらき

♥基線とは……ジグザグの振巾が0のときの針の位置で、ジグザグ縫いをするときの針の振れるもとの線となっています。



50図 基線をかえると同じ手動模様もこんなに変化する



ふりはば ちようせつ せいげん 振巾調節レバーと制限ツマミのはたらきは… (振巾の変化)

ふりはば ♥振巾とは……

ジグザグ縫いの場合、針が左右に振れて縫えるジグザグ巾のことです。51図のように直線縫い0から最大約5ミリメートルまで変化します。

♥振巾調節レバー

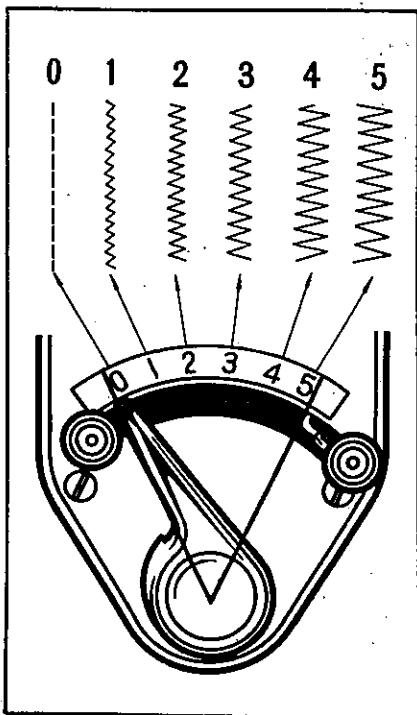
目盛の数字はだいたいミリメートルで表わし、レバーをご希望のジグザグ巾のところに合わせます。

♥振巾制限ツマミ (左・右)

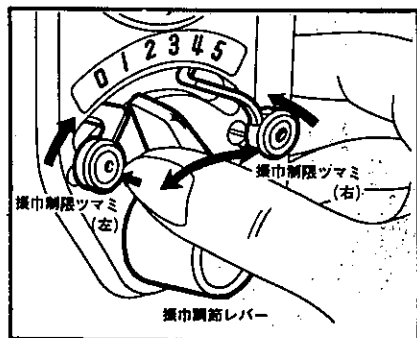
振巾調節レバーはバネで左(0)の方向へ押されていますので、

- 振巾制限ツマミ(左)で振巾の小さい方を、
- 振巾制限ツマミ(右)で振巾の大きい方をそれぞれご希望の振巾に制限したり、固定したりします。

※振巾制限ツマミ(左・右)を操作するときは、必ずそのツマミを向う側へいっぱい押しながら、左または右に動かしてください。



51図 振巾目盛とジグザグ縫いの振巾変化図

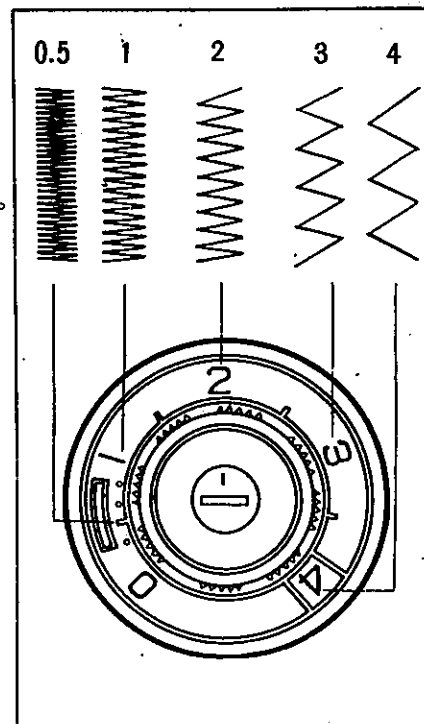


52図 振巾調節レバーと振巾制限ツマミの操作

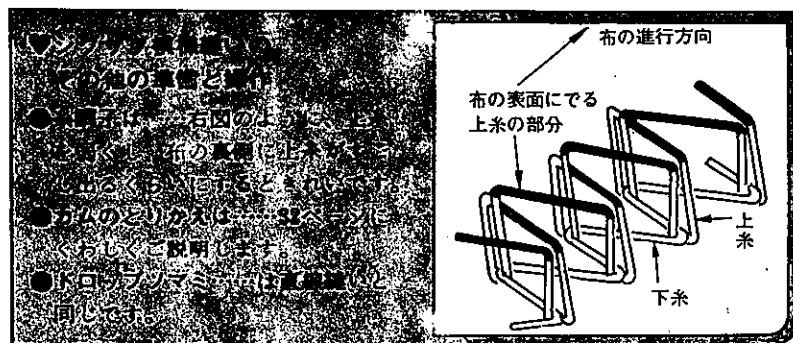


おくり 送りダイヤルのはたらきは……(縫い目の変化)

ジグザグ縫いの縫い目をかえるときは、直線縫いと同じように送りダイヤルの目盛を指示線に合わせます。ただし、ジグザグ模様を美しくさせるためには、0.25~0.5ぐらいです。



53図 送りダイヤルの操作による縫い目変化図





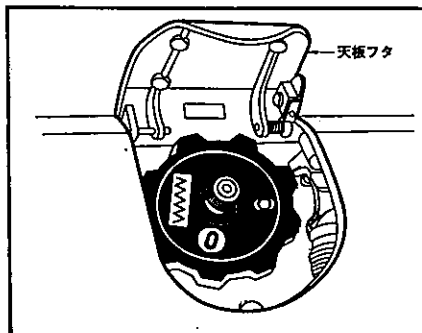
手動ジグザグ模様縫い

このミシンは自動ジグザグミシンですが、送りダイヤル、振巾調節レバー、万能ダイヤル（基線）を縫いながら操作することによって、カムによる自動模様縫いと同じようにいろいろな美しい模様縫いができます。ダイヤルやレバーを手で動かすので手動ジグザグ模様縫いといえます。

※手動ジグザグ模様縫いのときは、基本カム⑩を使います。カムのとりかえかたは32ページをごらんください。

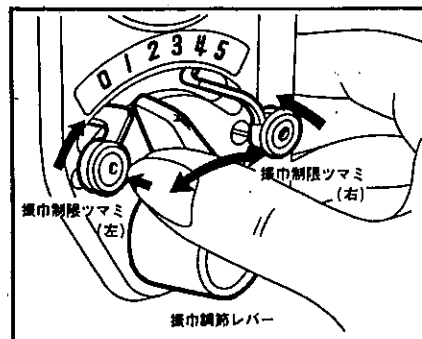
♣手動ジグザグ模様縫いは……

押エ……………ジグザグ押エ
カム……………基本カム⑩
万能ダイヤル……………L・M・R
送りダイヤル……………0.25～0.5
振巾調節レバー……………0↔5
ドロップツマミ……………2



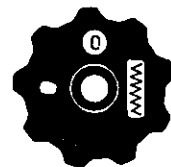
54図 基本カム⑩が入っているかたしかめる

- 1 振巾を5ミリメートルより細くしたいときは、左右の振巾制限ツマミをご希望の振巾目盛に合わせて振巾調節レバーを制限します。
- 2 右手で振巾調節レバーを調節しながら、左手で布の方向をかえながら縫います。



55図 振巾調節レバーに右手親指をかけて……

これは一例にすぎません。縫い目、振巾、基線の三つを自由自在に変化させれば、ほかにも数限りない模様縫いができます。



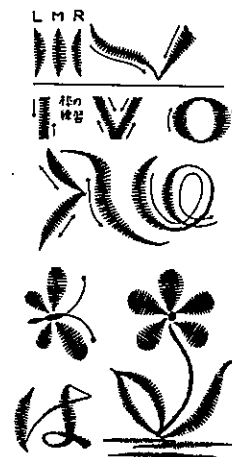
手動の縫い目と操作の例

※カム＝基本カム⑩を使います。

縫い目	送りダイヤル	振巾調節レバー	万能ダイヤル
-----	希望の縫い目	0	L
~~~~~	1以下	5	L・M・R
~~~~~	希望の縫い目	1～5	L・M・R
~~~~~	"	0から5まで動かした0にもどす	L
~~~~~	"	"	M
~~~~~	"	"	R
~~~~~	3～1以下をくり返す	希望のジグザグ巾	L・M・R
~~~~~	希望の縫い目	2と5または4をくり返す	L
~~~~~	希望の縫い目	2と5または4をくり返す	M
~~~~~	"	"	R
~~~~~	"	0から5へゆるやかに動かし急に0へ戻す	L
~~~~~	"	"	M
~~~~~	"	"	R
~~~~~	"	2 1/2	L・Rを交互にくり返す
~~~~~	"	約 1 1/2	L-M-R-M-Lの順に動かす
~~~~~	"	2	L-R-Lとゆるやかに動かす

## ♥手動の練習

まっすぐに縫うだけでなく、すこしなれたら下図のように布を動かしながら、曲線や文字、図案などを描くこともちょっとなれば簡単にできます。



56図 手動ジグザグ模様縫いの実物大の例



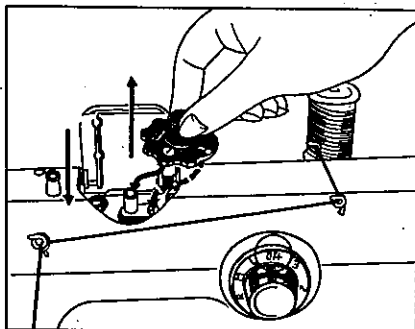
12コの模様カムを使った

## 自動ジグザグ模様縫い(一本針)

このミシンはフルオートマチックジグザグミシンですから、付属の12種類のカムによって、どなたにもやさしく美しい自動ジグザグ模様縫い(カムシシュウ)ができます。

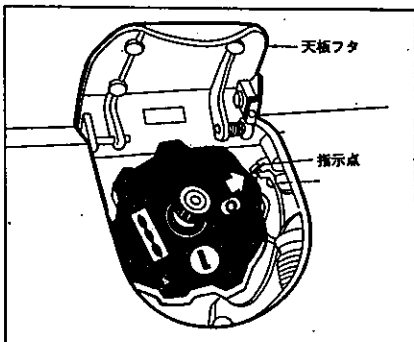
### ♥カムの交換は……キチンと入れてください

- 1 万能ダイヤルのOFFを指示線から、さらに左にまわすと、天板フタが自動的に開きます。
- 2 基本カム⑩を引っぱってぬきとりご希望のカムを軸ピンに合わせていっばいにさしこみます。
- 3 天板フタをしめ、万能ダイヤルをLにあわせます。



57図 カムのとりかえかた

※ハズミ車をまわして模様カムの矢印と爪を合わせて縫いはじめると模様をスタートから縫うことができます。(58図)

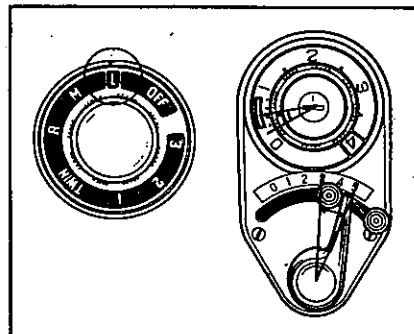


58図 カムの矢印と爪をあわせたとこ

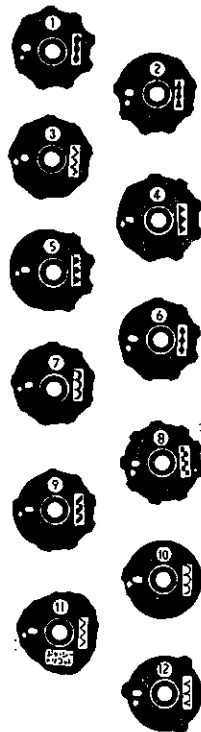
### ♣ジグザグ模様縫いは……

押エ……………ジグザグ押エ  
カム……………模様カム①～⑫  
万能ダイヤル……………L  
送りダイヤル……………0.25～0.5*  
振巾調節レバー……………3～5  
ドロップシマミ……………2

※振巾調節レバーによって模様の巾は2.5mmぐらいまで細くなります。



### ♥模様カムの種類

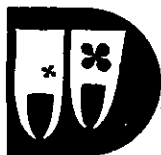


59図 ジグザグ模様縫いの条件

※10番カムは送りダイヤルを「1.0～1.5」に合わせて下さい。

カム番号	1 本 針
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10*	
11	
12	

60図 振巾調節レバー「5」のときの模様の種類。



## 二本針の縫いかたと種類

### ◆二本針で縫うときは……

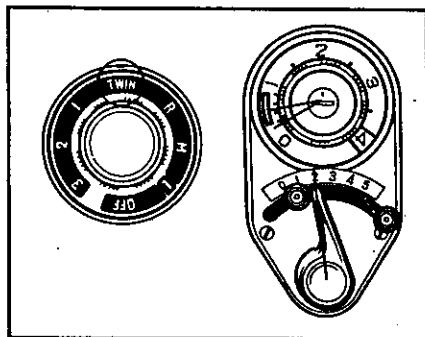
押エ……………ジグザグ押エ  
カム……………模様カム①～⑬※  
万能ダイヤル……………TWIN  
送りダイヤル……………0.25～0.5  
振巾調節レバー……………2  
ドロップツマミ……………2

※二本針縫いでは、万能ダイヤルを「TWIN」にするのが一本針のときとちがっています。

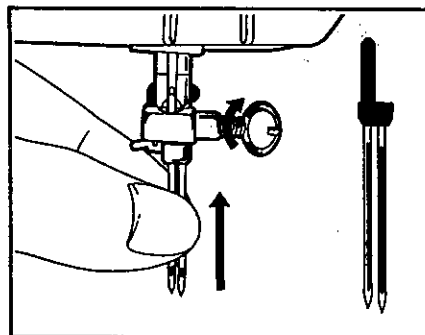
※10番カムは送りダイヤルを「1.0～1.5」に合わせて下さい。

1 二本針を一本針と同じように正しくとりつけます。(62図)

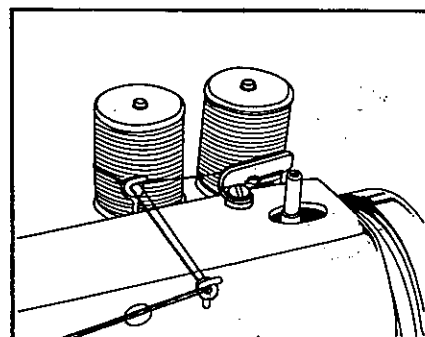
2 糸立棒には63図のように2つの糸巻きをさして、次ページの64図の順序で上糸をかけます。



61図 二本針縫いの条件、特にTWINに注意

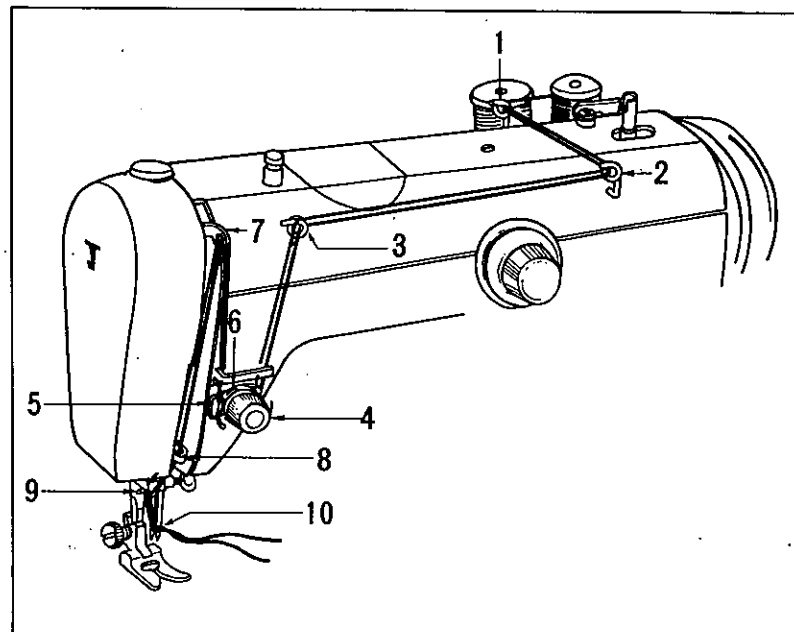


62図 正しい二本針のとりつけかた



63図 糸立棒には二つの糸巻を

### ♥二本針のときの上糸のかけかた



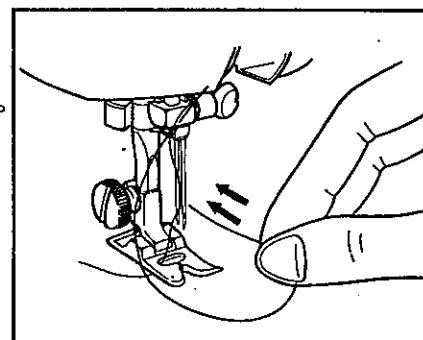
64図 二本針のときの上糸をかけるコース順序

3 一本針のときと同じ順序で①天板糸案内から⑨針棒糸案内まで、二本の糸をいっしょにかけます。

4 つづいて⑩針穴へは65図のようにそれぞれ左右に分けて、2本の針穴へ、手前から向う側へ通します。

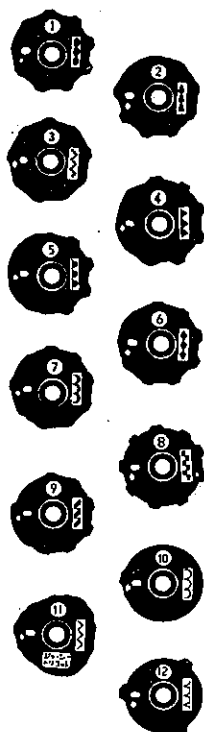
### ♥二本針のときの下糸は……

一本針と同じように準備します。  
上糸が2本でも、下糸は1本です。



65図 糸を左右にわけ二本針の穴へ手前から通す

## ♥二本針によるカム模様の種類



ジグザグ縫い

二本針の模様は振巾調節レバーを目盛「2・3・4・5」のいずれに合わせても巾が2mmの並んだ模様となります。

※ハズミ車をまわして模様カムの矢印と爪を合わせて縫いはじめますと、模様をスタートから縫うことができます。カムの交換のしかたは一本針のときと同じですがダイヤルは必ずTWINに合わせます。

カム番号	2 本 針
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10*	
11	
12	

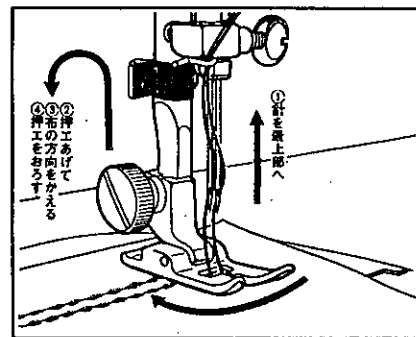
66図 振巾調節レバー「2～5」のときの二本針の模様

※10番カムは送りダイヤルを「1.0～1.5」に合わせて下さい。

## ♥二本針で角を縫うときは……

布の角を縫うときは、一本針とちがって、必ず布から針先をぬいてから布の方向をかえます。

※二本針をさしたまま布の方向をかえると針が曲ったり折れたりしますからご注意ください。

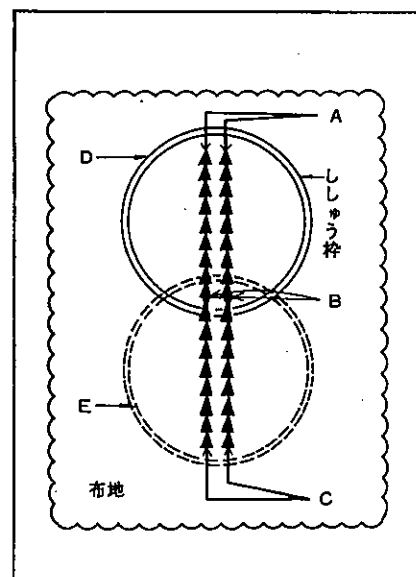


67図 二本針で布の方向をかえるところ

## ♥デシン・トリコットなどの場合のししゅう枠の使いかた

特殊な布（デシン・トリコットなど）に二本針縫いをすると、布が縮んできれいに縫えません。その場合はししゅう枠に布をピンとはって、68図のように縫います。

- 1 A点からB点まで二本針縫いをしたら
- 2 針を布にさしたままで、枠をいったん布からはずし
- 3 DからEのところまで枠を移してC点まで縫ったあと、また同じことをくりかえしていきます。



68図 ししゅう枠の移しかた



直線縫いや模様縫いができるようになったら、応用縫いの練習をしてみましょう。洋裁や手芸にたいへん便利です。また複雑なミシンしゅうもスピーディに仕上がります。

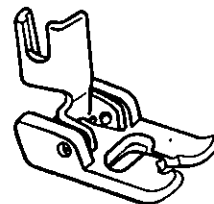


基本カム⑩を使った応用縫い

ボタンホール  
(ボタン穴かがり)

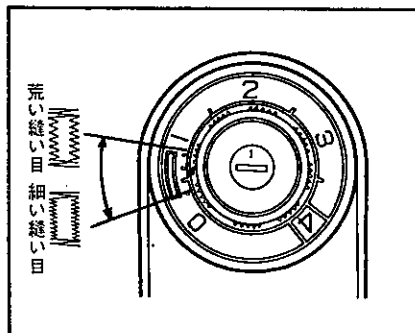
♣ボタンホールを縫うときは…

押エ……………ボタンホール押エ  
カム……………基本カム⑩  
万能ダイヤル……………1→2→3→2  
送りダイヤル……………0.3→0.7  
振巾調節レバー……………3→5  
ドロップツマミ……………2



69図 基本カムをつけ、ボタンホール押エを使う

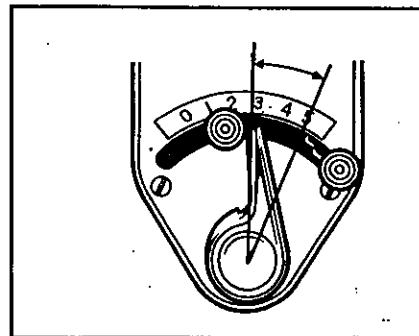
- 1 ボタンホール押エにとりかえ
- 2 送りダイヤルをボタンホール送りの印のある範囲で  
薄い布地のとき→細い縫い目  
厚い布地のとき→荒い縫い目  
にするのが普通です。



70図 送りダイヤルのボタンホール送りの範囲

- 3 チャコなどで布地にボタン穴の位置と長さの印をつけ

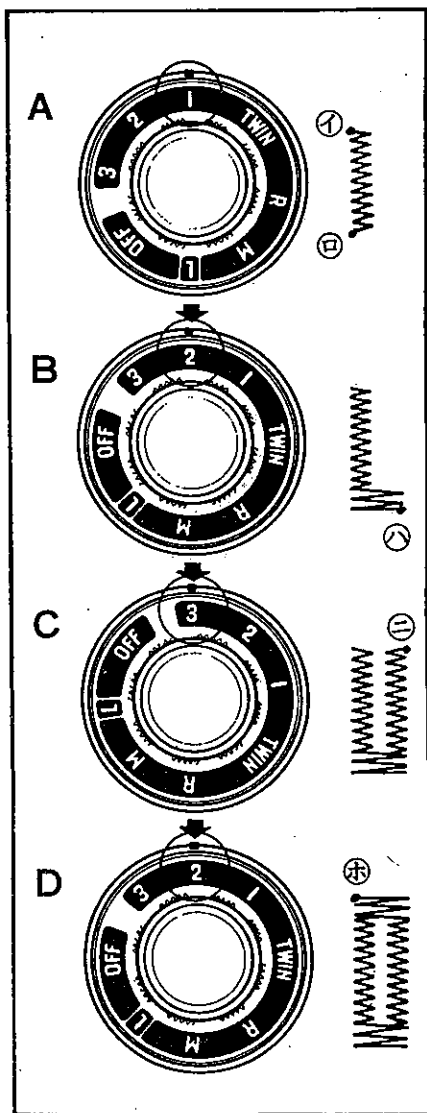
- 4 ボタンの厚みなどをかんがえて、ご希望のカンヌイ巾に振巾調節レバーを合わせ、振巾制限ツマミで固定します。



71図 ご希望のカンヌイ巾にセットする

## ♥ ボタンホールの縫いかた

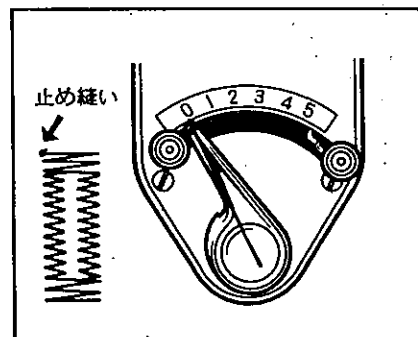
- 1 万能ダイヤルの「1」を指示線に合わせ
- 2 ハズミ車をまわし、針の位置を左にして①点に針をさし、押エをおろし、ご希望の長さまでゆっくり縫い
- 3 針が②点にきたとき運転を止めます。(72図-A)
- 4 万能ダイヤルの「2」を指示線に合わせ
- 5 カンヌイを5針ほどして③点で運転を止めます。(72図-B)
- 6 万能ダイヤルの「3」を指示線に合わせ
- 7 左側の縫い目と同じ長さになるまで、ゆっくり縫って針が④点にきたとき運転を止めます。(72図-C)
- 8 万能ダイヤルの「2」を指示線に合わせ
- 9 カンヌイを5針ぐらい縫います。(72図-D)



72図 ボタンホールの縫い方順序

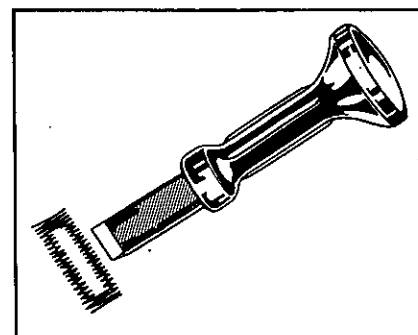
- 10 針をあげて、振巾調節レバーを0に合わせて5～6針止め縫いをします。

※止め縫いすると、ほつれませんかから丈夫になります。ほかの縫いかたのときでも止め縫いは同じ要領でしてください。



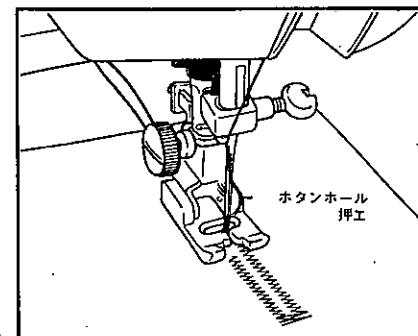
73図 止め縫いは振巾調節レバーを0にする

- 11 ボタンホールカッターで、縫い目を切らないよう注意しながら、中央を切り開きます。



74図 ボタンホールカッターの使いかた

- ※上糸をやや強めにすると仕上がりが美しくなります。
- ※まえに縫ったところへもう一度くりかえして縫うと丈夫になります。
- ※なれば運転を止めないでも連続的に縫えますが、はじめは針を布からぬいてから万能ダイヤルをまわしてください。
- ※長い間縫ったあとで、ボタンホールかがりをするときは、よく送り歯を掃除してから始めましょう。



75図 ボタンホールを縫っているところ



# 基本カム⑩を使った応用縫い

## ボタンつけ

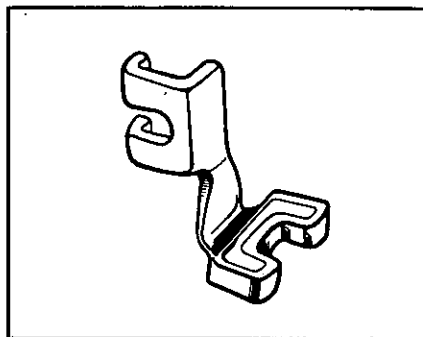
### ♣ ボタンつけのセットは…

押エ……………ボタンつけ押エ  
カム……………基本カム⑩  
万能ダイヤル……………L  
送りダイヤル……………0  
振巾調節レバー 0→2～5  
ドロップツマミ……………0

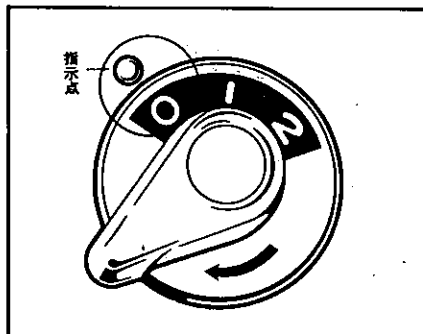
- 1 ボタンつけ押エをとりつけ
- 2 ドロップツマミを「0」にします。

※「0」にしないと布が送られて、ボタンつけはできません。

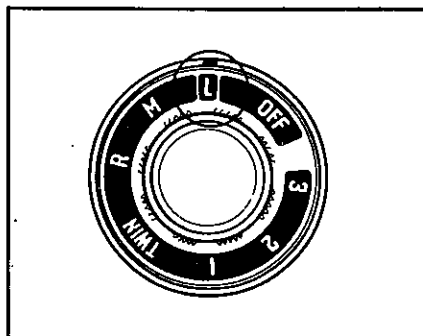
- 3 万能ダイヤルを「L」にします。



76図 ボタンつけ押エを使う

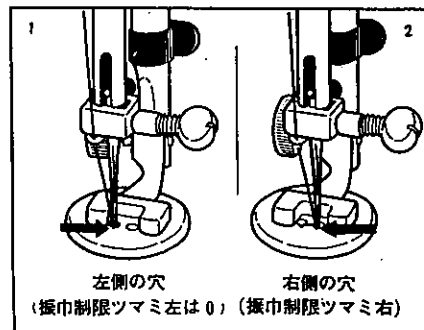


77図 ドロップツマミを0にする



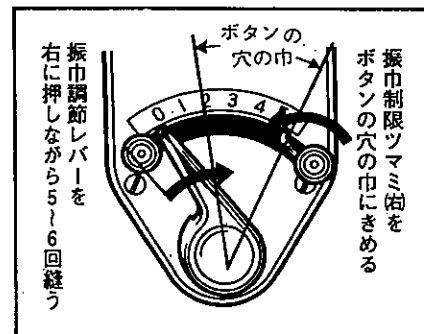
78図 万能ダイヤルをLにする

- 4 はじめに振巾調節レバーを0にして、布地にボタンを置き、ハズミ車を手前にまわして針を静かにおろし、ボタンの左側の穴に針が落ちるように合わせ
- 5 押エをおろしてボタンが動かないようにしてから
- 6 針をあげ振巾調節レバーを動かして、ボタンの右側の穴に針が落ちるよう合わせ
- 7 その位置に振巾制限ツマミ(左)をよせ次に(右)をよせます。これでボタン穴の寸法に合うようセットができました。



79図 ボタン穴の寸法へ合わせる

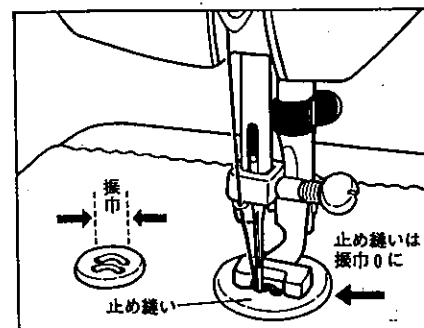
- 8 右手でハズミ車を手前にまわし、5～6回縫います。



80図 振巾制限ツマミと振巾調節レバーのあつかい

- 9 最後に振巾制限ツマミ(左)を0にして3～4回止め縫いをします。

※四つ穴ボタンでは同じようにして他の二つの穴を縫います。  
※ボタンを布地から浮かしたいときはマッチ棒などを間にはさみ、ボタンを浮かせてから縫います。  
※ホックやガギホックも同じ縫いがたでつけられます。



81図 縫い終わったら止め縫いをする



基本カム⑩を使った応用縫い

## アップリケ

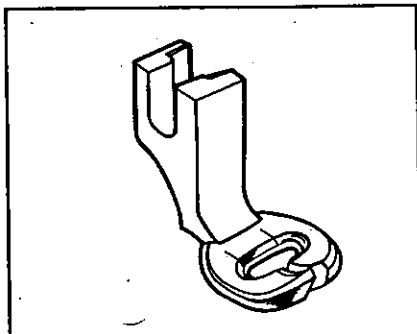
♣アップリケのセットは……

押エ……………アップリケ押エ  
カム……………基本カム⑩  
万能ダイヤル……………L  
送りダイヤル……………0.25～4  
振巾調節レバー……………1～5  
ドロップツマミ……………2

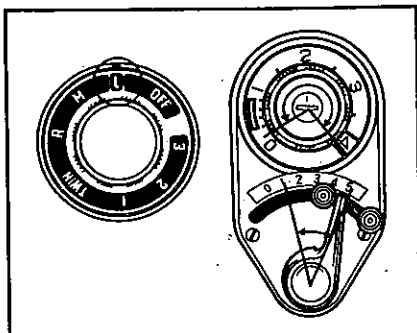
- 1 アップリケ押エをとりつけ、
- 2 振巾調節レバーは1～5ですが、ふつう3ぐらいです。
- 3 送りダイヤルは0.25～4、ふつう1.5ぐらいに合わせます。

- 4 アップリケ布の裏にノリをつけてアイロンで押えるか、シツケをしておきます。
- 5 アップリケ布のふちにそって、一定の振巾(1～5)で縫いとめていきます。

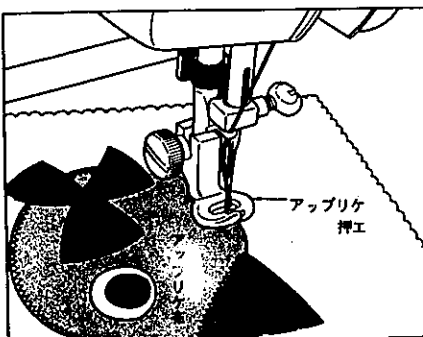
※はじめと終りは布地から針を上げ  
振巾調節レバー0、ドロップツマミ0にして、止め縫いをします。



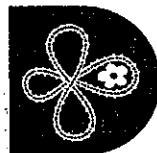
82図 アップリケ押エは糸と布が透けてみえる



83図 アップリケのときの条件



84図 アップリケの縫いかた



基本カム⑩を使った応用縫い

## コードシシュウ(ひもつけ)

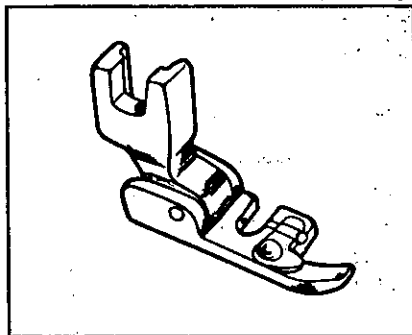
♣コードシシュウのセットは……

押エ……………ヒモツケ押エ  
カム……………基本カム⑩  
万能ダイヤル……………L  
送りダイヤル……………1～3  
振巾調節レバー……………1～3  
ドロップツマミ……………2

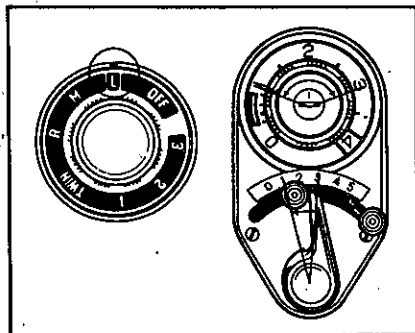
- 1 ヒモツケ押エをとりつけ、
- 2 ヒモツケ押エのパネの下にヒモを通し、裏側にあるミゾにヒモをばめながら押エをおろします。

- 3 ヒモの太さに合ったジグザグ振巾に振巾調節レバーをセットして、
- 4 縫っていくとしげんにヒモが縫いつけられます。

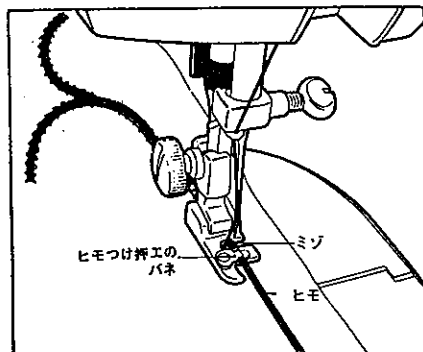
※ヒモと糸をちがう色にして、縫い目の間隔を適当に長くすれば、二色効果のある模様ができます。



85図 ヒモツケ押エを使う



86図 コードシシュウのときの条件



87図 コードシシュウの縫いかた

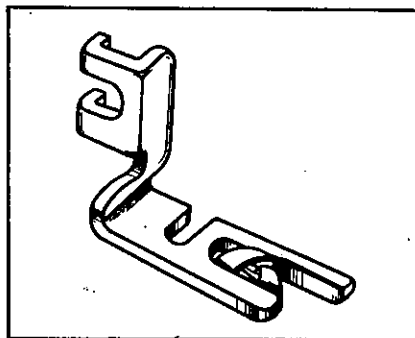


# 三ツ巻縫い

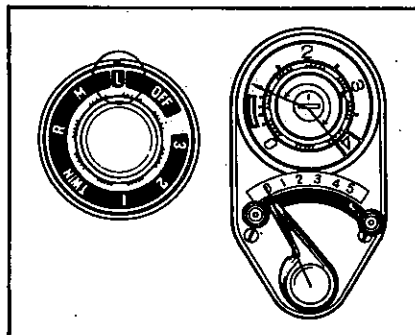
♣三ツ巻縫いのセットは……

押エ……………三ツ巻  
カム……………基本カム①  
万能ダイヤル……………L  
送りダイヤル……………1～4  
振巾調節レバー……………0  
ドロップツマミ……………2

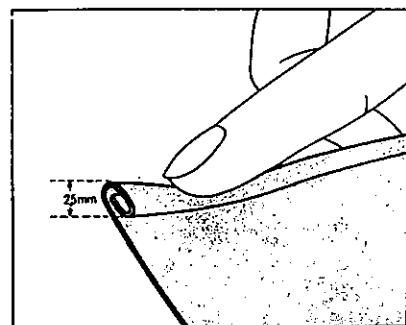
- 1 三ツ巻をとりつけ
- 2 振巾調節レバーを「0」にします。
- 3 三ツ巻しようとする布地の端を約6cmぐらいの長さにわたって2.5mm巾に2度折りまげます。(90図)
- 4 折った布の端を三ツ巻の下に、横におき、縫いはじめの位置に針先をつきさします。(91図)



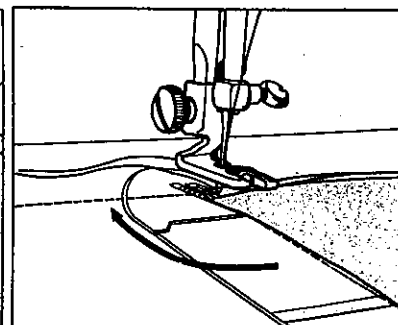
88図 三ツ巻を使う



89図 三ツ巻縫いの条件

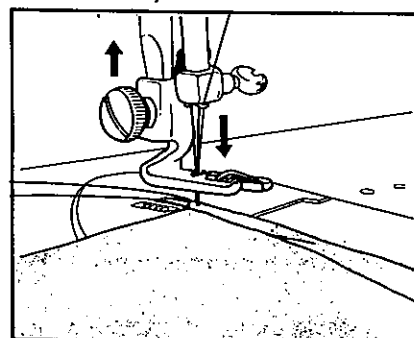


90図 布地の端の折りかた



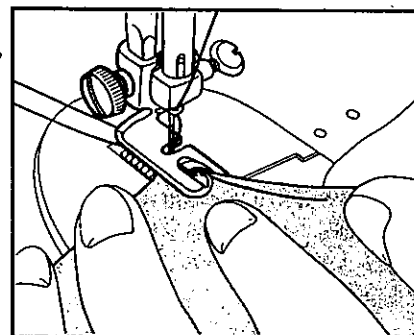
91図 布地を横におき針を突きさし

- 5 つぎに布地を左にまわし、三ツ巻しようとするフチを布の進む方向にします。



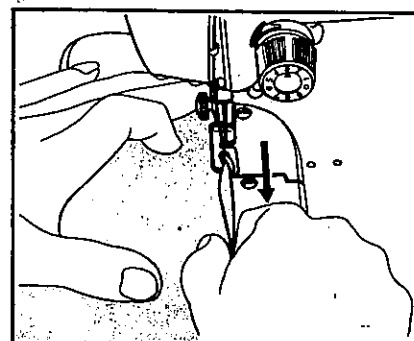
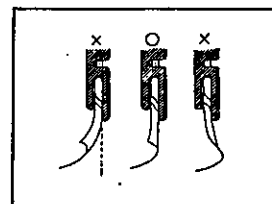
92図 布地を送りの方向にかえる

- 6 二つに折った山を、三ツ巻の渦の中に巻きこむようにさしこみます。



93図 二つ折した山を三ツ巻にさしこむ

- 7 押エをおろし運針にしたがって、三ツ巻の巾に布地が同じ巾で入っていくよう、右手で布地を送りにさからわず、まっすぐに調節しながら縫います。



94図 布はまっすぐ入るよう右手で調節する



## 基本カム⑩ / 直線縫いの応用

### ファスナーつけ

#### ♣ファスナーつけのセットは……

押エ……………フチ縫い押エ  
※その他のセットは直線縫いのときと同じです。

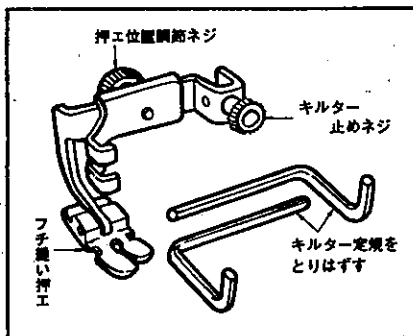
- 1 フチ縫い押エにキルター定規がついているときは、キルター止めネジをゆるめて、はずしてからとりつけます。

- 2 振巾調節レバーを「0」にして

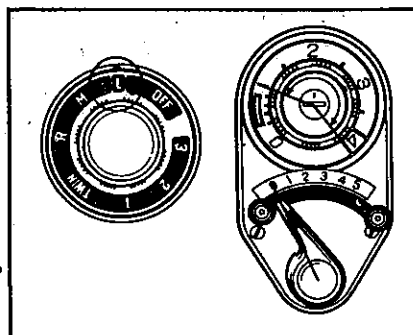
- 3 左側を縫うときは押エ位置調節ネジをゆるめて、押エの位置を針落ちに合わせて、押エ位置調節ネジで固定します。

- 4 ファスナーの端にそって縫います。

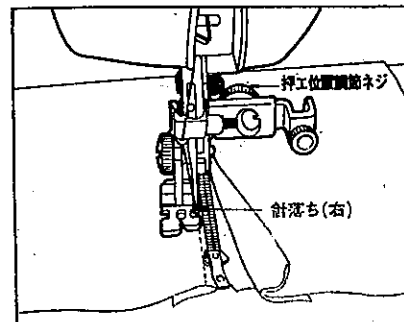
- 5 右側を縫うときは同じように押エを針落ちに合わせて固定します。



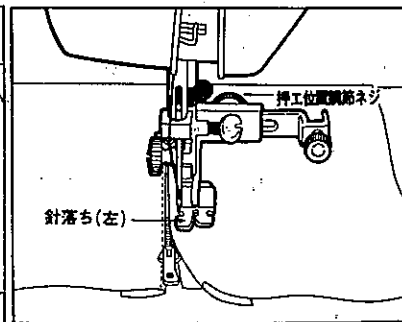
95図 キルター定規をはずしフチ縫い押エを使う



96図 ファスナーつけのときの条件



97図 ファスナーの左側を縫うとき



98図 ファスナーの右側を縫うとき



## 基本カム⑩ / 直線縫いの応用

### キルティング(さし縫い)

#### ♣キルティングのセットは……

押エ……………ダブルジッパー  
(フチ縫い押エ+キルター定規)  
※その他のセットは直線縫いのときと同じです。

- 1 キルター止めネジをゆるめてキルター定規をさしこみ、位置をきめてかりにとめて、とりつけます。

- 2 ダブルジッパー(フチ縫い押エ+キルター定規)をとりつけ、

- 3 振巾調節レバーを「0」にして、

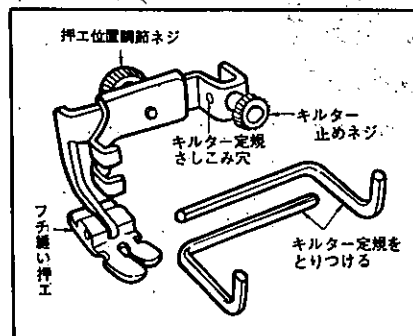
- 4 万能ダイヤルの「L」又は「M」を指示線に合わせます。

- 5 押エの位置を針落ちに合わせて、押エ位置調節ネジを固くしめます。

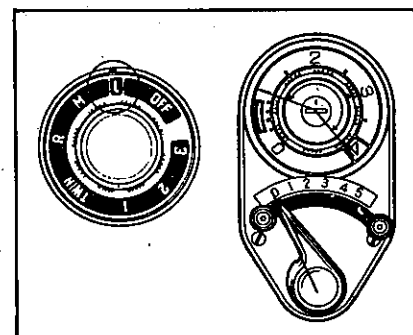
- 6 縫い目の間の間隔をきめ、その長さだけ、針からキルター定規を動かし、キルター定規のカギの部分(カギの部分)が布地をかるく押えるように調整し、キルター止めネジで固く止めます。

- 7 キルター定規のカギの部分(カギの部分)が前の縫い目を通るようにして縫っていきます。

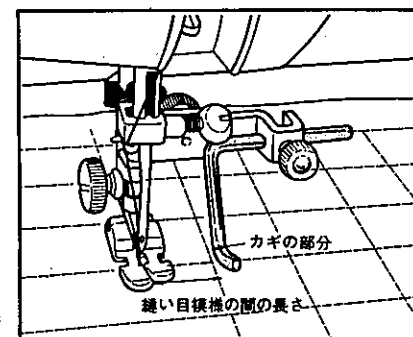
※キルター定規には、右側にさしこむものと、左側にさしこむものと2種類ありますから、キルティングする線の間隔の大きさによって選んでください。



99図 フチ縫い押エにキルター定規をつけて使う



100図 キルティングするときの条件



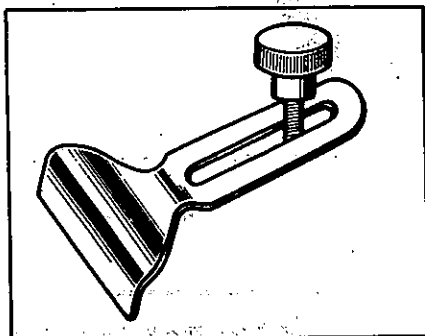
101図 キルティングの縫いかた



## 基本カム① / 直線縫いの応用

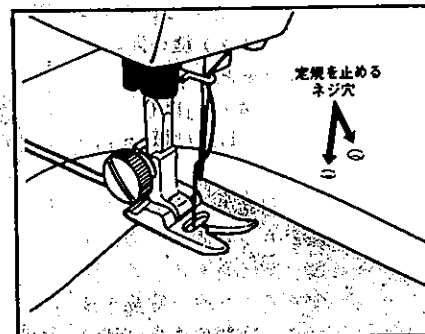
### ステッチ(定規の使いかた)

布地の端にそって縫いたいときや  
端から3~4cmぐらいまでのところ  
に縫い目をそろえて縫いたいときな  
どに、この定規が役立ちます。



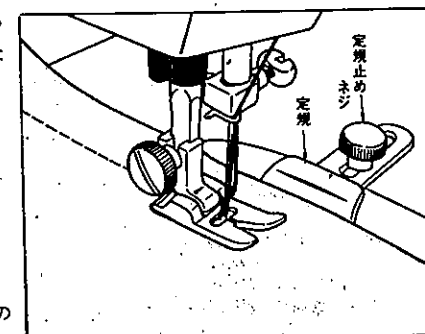
102図 定規と止めネジ

- 1 定規をご希望の間隔に合わせて、  
ミシンのベッドのネジ穴に止めネ  
ジでしっかり止めます。



103図 定規を止めるネジ穴の位置

- 2 布地の端が定規にぴったりあたる  
ようにして、しぜんに前へ送りな  
がら縫います。



104図 定規を使って縫うところ

※ジグザグ模様縫いのときも、この  
定規をお使いください。

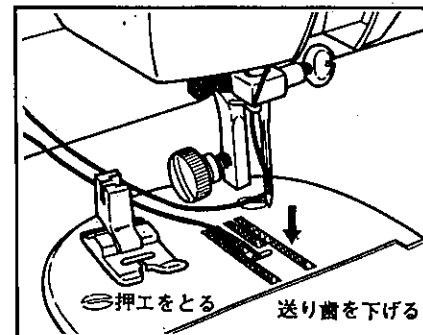


## 基本カム①を使った応用縫い

### ししゅう縫い

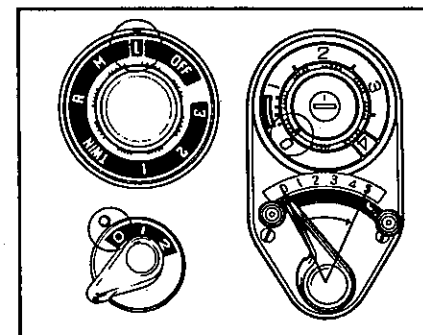
ししゅう縫いのセットは……

押工………	とりはずす
カム………	基本カム①
万能ダイヤル………	L
送りダイヤル………	0
振巾調節レバー………	0 → 5
ドロップツマミ………	0

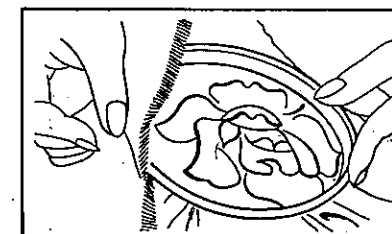


105図 押工をとりはずす

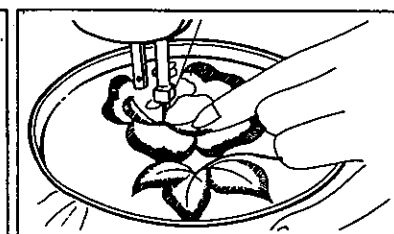
- 1 押工をとりはずして、
- 2 ドロップツマミを「0」に合わせ、
- 3 布地に図案を描き、ししゅう枠に  
たたくとパンパン音がするくらい  
ピンと張ります。
- 4 左手でししゅう枠をもち、針がう  
まく図案を描くように動かしながら、  
右手で振巾調節レバーを動か  
し振巾を変化させながら、ししゅ  
うします。



106図 ししゅう縫いのときの条件



107図 布を枠にピンと張る



108図 左手で枠を動かしながら縫う

※布地が針板から浮かないようにします。

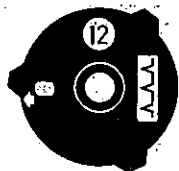
※糸調子は下糸が表にでないよう、上糸をで  
きるだけ弱くします。



## 模様カムを使った応用縫い

### 盲縫い (くけ縫い)

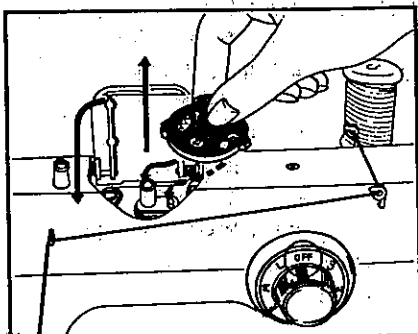
模様カムによるステッチは装飾しゅう  
うに使われるだけでなく、その独特なジ  
グザグ縫いで、いろいろな応用ができま  
す。盲縫いは布の表側の縫い目を小さく  
したいとき、衣類のすそなどをくけると  
きに使うと便利です。



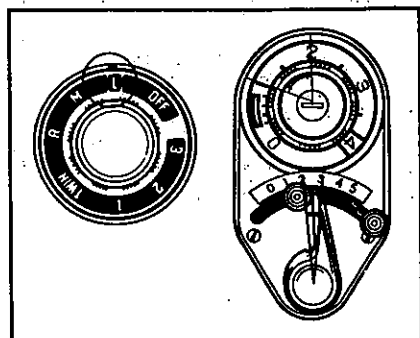
### ✦盲縫いのセットは……

押エ……………ジグザグ押エ  
カム……………模様カム⑫  
万能ダイヤル……………L  
送りダイヤル……………1～2  
振巾調節レバー……………2～3  
ドロップツマミ……………2

1 万能ダイヤルをOFFにして、天板  
フタが開いたら、模様カム⑫をと  
りつけ、万能ダイヤルを「L」にし  
ます。



109図 模様カム⑫をとりつける



110図 盲縫いをするときの条件

2 布地の端を三つ折りにして、その  
部分を下側に折り返します。

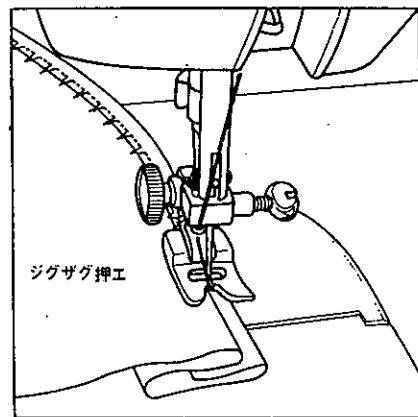
(112図-1・2)

3 針が右侧にきたとき、折り返した  
布の端から1mmぐらい中に入る位  
置において、押エをおろし糸調子  
をゆるめにして縫います。

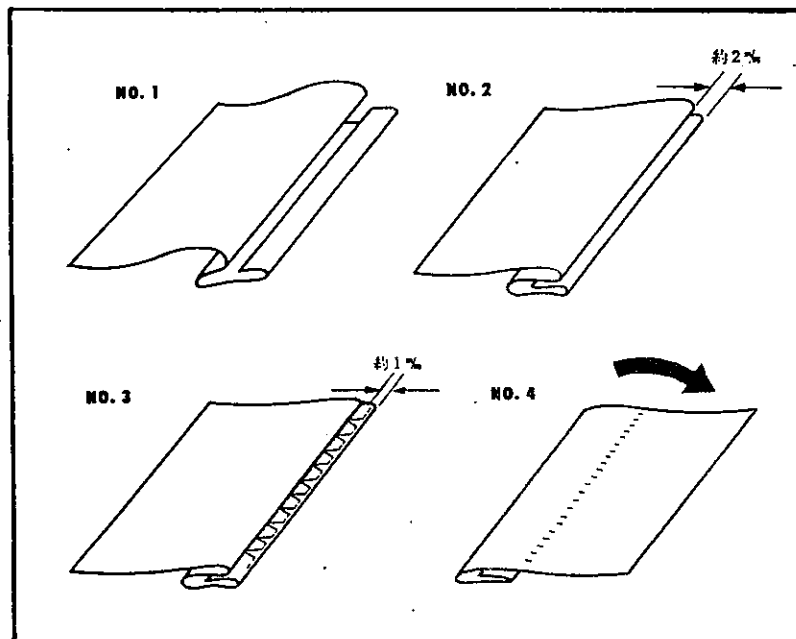
(112図-3)

4 縫い終わって布をひろげると盲縫  
い (くけ縫い) ができます。

(112図-4)



111図 盲縫いをしている図



112図 盲縫いの縫い方順序



## 模様カムを使った応用縫い

### の伸び縮みする布を縫うとき

ジャージー、トリコットなど伸び縮みする布地は、この方法で縫えば伸びても糸が切れません。ダーツ、脇線などに…

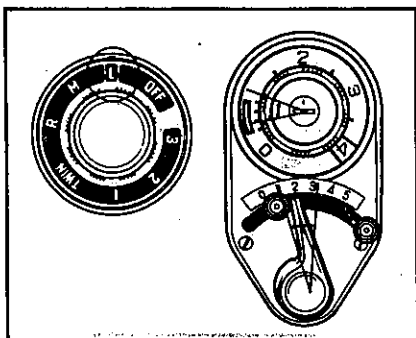


### ◆伸び縮みする布を縫うには……

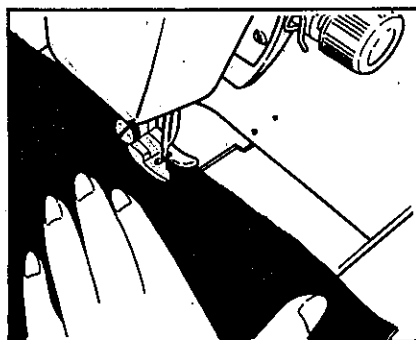
押エ……………ジグザグ押エ  
カム……………模様カム⑪  
万能ダイヤル……………L  
送りダイヤル……………0.5 ~ 1  
振巾調節レバー……………2 ~ 3  
ドロップツマミ……………2

1 模様カム⑪をとりつけます。

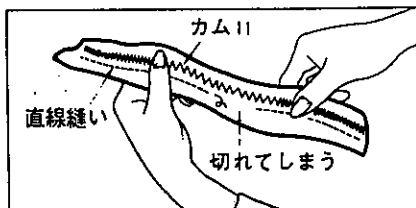
2 針はジャノメジャージトリコット針（紫色印の針）か、または9番 ~ 11番で縫います。



113図 伸び縮みする布を縫うときの条件



114図 カム⑪で縫っているところ



115図 伸ばしても糸が切れない

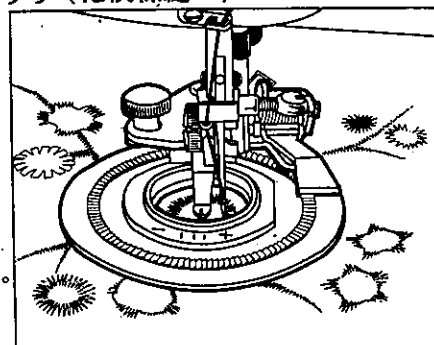
※形くずれがするようなどころにはしっかりした布を裏側にあてて縫ってください。



## 模様カムを使った応用縫い

### フラワーステッチ (花模様縫い)

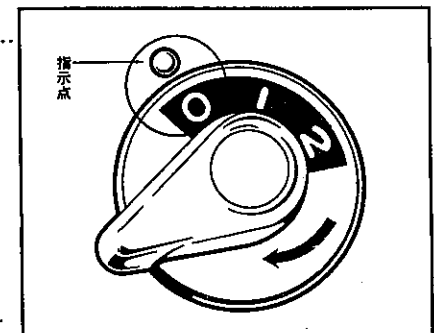
この小さな器具をとりつけると、花模様縫いがやさしくできます。ジグザグ模様カムを使って基本縫いのほか、アップリケ、ふちかがり、変色縫い、ブーケ縫い、チュール縫いなどの美しい応用縫いもできます。



116図 フラワーステッチの縫いかた

### ◆フラワーステッチのセットは……

押エ……………フラワーステッチ  
カム……………基本カム⑩、模様カム⑪~⑫  
万能ダイヤル……………L  
送りダイヤル……………0  
振巾調節レバー……………3 ~ 5  
ドロップツマミ……………0

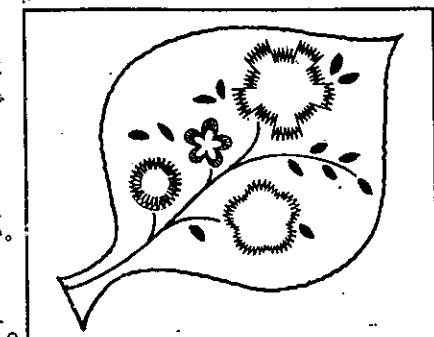


117図 ドロップツマミを必ず0にする

- 1 押エをとりはずしてフラワーステッチをとりつけ、
- 2 ドロップツマミを「0」に合わせて
- 3 ご希望のカムをとりつけます。
- 4 花模様の大きさを、ディスク押エで調節してきめ、押エしめネジで固定して縫います。

※くわしい縫いかたは「フラワーステッチ説明書」をごらんください。  
※「フラワーステッチ」はジャノメ直営支店でお求めください。

定価¥500です。



118図 大・中・小の花模様の応用例



ミシンの精度をいつまでももちつづけるために、お使いになったあといつもゆきとどいたお掃除をし、ときどき動く部分に注油をして、可愛がってやってください。

## 注油の方法



### ♥注油する油は……

良質のミシン油を……《ジャンメ  
ミシン油》をおすすめします。

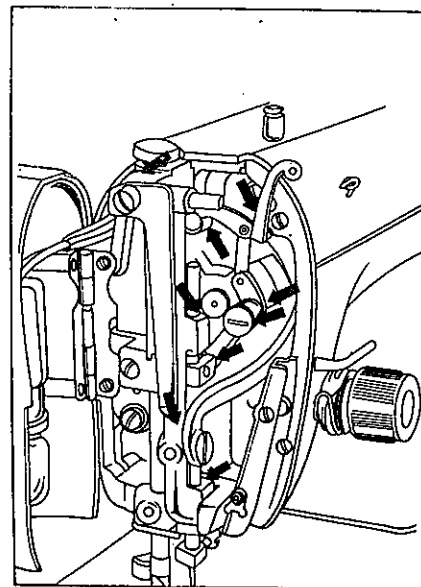
### ♥注油の時期

一般のご家庭では一週間に1回注油すれば十分です。

※使用時間が計7～10時間になったら一通り注油し、またしばらく使用しなかったときは一通り注油してから使いましょう。

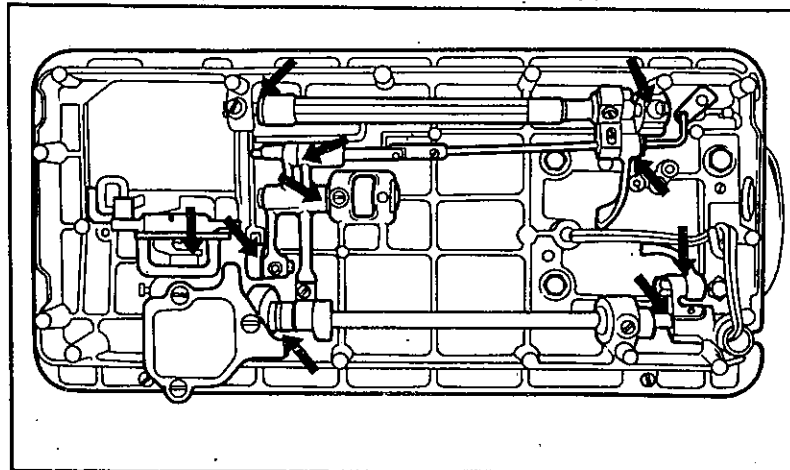
### ♥注油するところは……

119図、120図、122図、124図の矢印のところへ注油します。

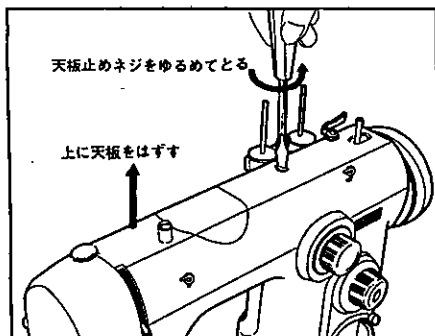


119図 面板のなかの注油するところ

※足踏ミシンでは、踏板とベルト車の動くところへも注油しましょう。



120図 ベッドの裏側の注油するところ



121図 天板をはずすときは

♥天板をはずすときは……

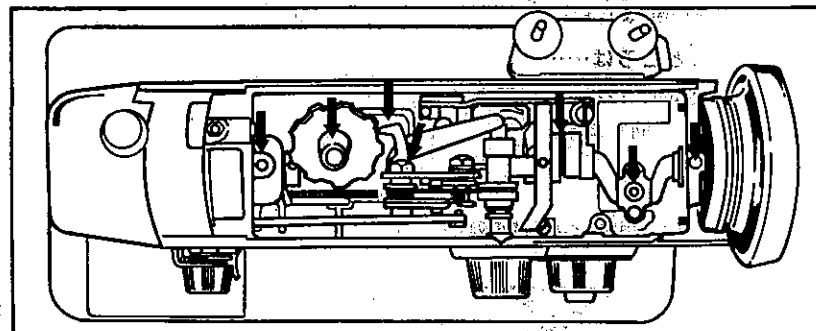
1 ネジまわしで天板止めネジをゆるめ、はずします。(121図)

♥天板をはめるときは……

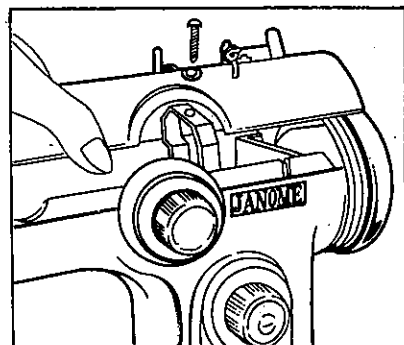
2 天板をのせ、天板止めネジをしめます。(123図)

♥注油が全部すんだら……

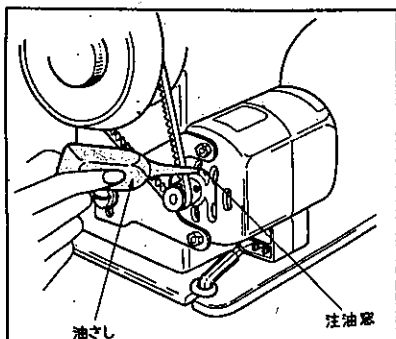
ミシンを1～2分ほど早く回転させて、よく油をしみこませます。



122図 天板の中の注油するところ



123図 天板をはめるときは



124図 モーターの注油するところ  
(モーターへは半年に1度位注油します)

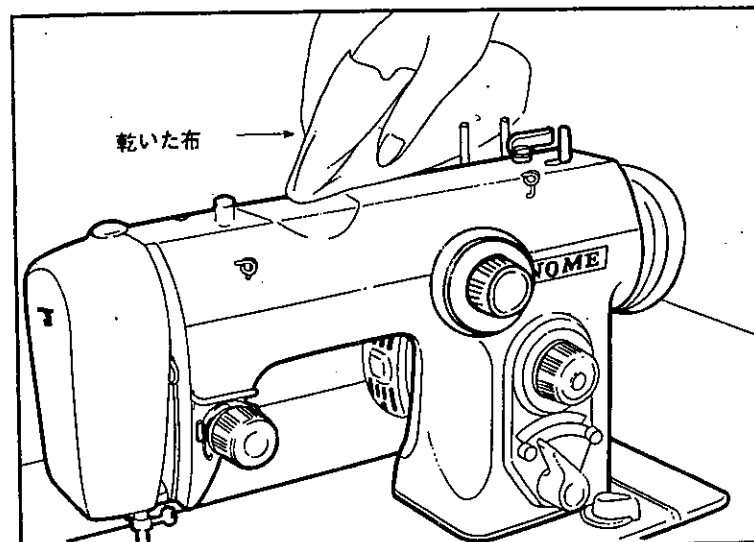


がいそう  
外装はこんなお手入れを……

お使いになったあとは、いつもきれいに掃除してください。

- 1 アームやベッドは金属製ですから、ほこりや手垢、油などの汚れは、水をつけず乾いたやわらかい布でふきとりましょう。
- 2 ポータブルレジジンケースは、ジャノメリヤー、中性洗剤などでかるくふきとります。すこしの汚れなら水に浸してしぼった布でふいてもきれいになります。

※シンナー、ベンジン、ミガキ粉などは絶対にご使用なさらぬよう、またあまり固い布でゴシゴシこすらないようお願いします。  
※木製のテーブルや金属製の部分は、水でふかないようご注意ください。

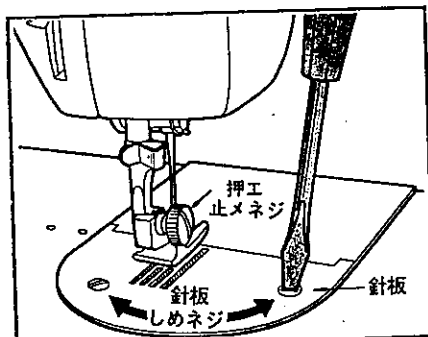


137図 ミシンの頭部は乾いた布でいつもきれいに



送り歯には、ゴミや糸くずがたまりやすいので、ときどき次の方法でお掃除してください。

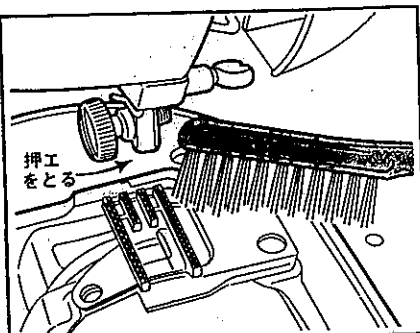
- 1 押エ止めネジ及び針止めネジをゆるめ押エと針をはずします。
- 2 針板止めネジをゆるめ、針板をはずします。



126図 押エと針板をとりはずす

- 3 送り歯についた糸くずやゴミを歯ブラシなどで掃除します。(送り歯の裏側のゴミも布などを入れてとりのぞいてください。)

- 4 きれいになったら、反対の順序で部品をもと通りにとりつけます。

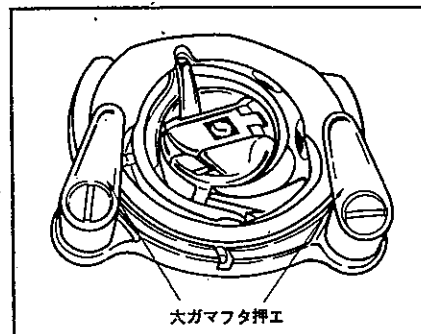


127図 歯ブラシなどでゴミをとる

※カマの掃除の前に必ず送り歯を掃除してください。せっかく掃除がすんだカマの上にゴミを落さないためです。



ジャノメミシンには《特許カマクリナー装置》がありますので、カマのゴミはしぜんにはきだされ、万一逆回転しても糸がからむことも防止します。もしカマに糸くずが巻きついたり、カマの部分に注油するときには次の順序で分解組立をします。



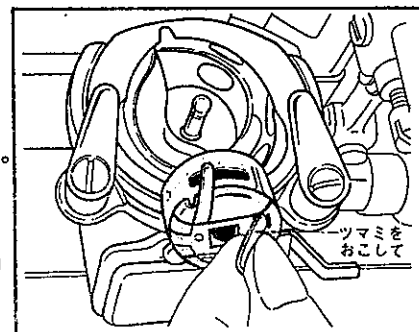
128図 カマ部の全面図

### ◆カマの分解のしかた

- 1 ハズミ車を手前にまわし、針棒を最上部にあげ、頭部を向う側にたおします。
- 2 まずボビンケースをとりだします。

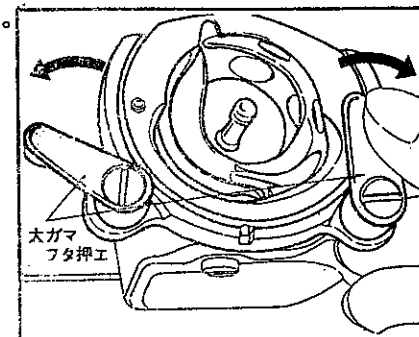


ボビンケース



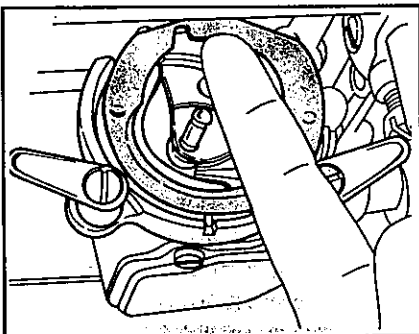
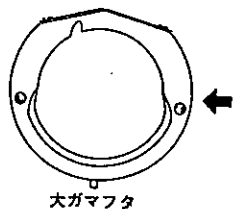
129図 ボビンケースをとりだす

- 3 大ガマフタ押エを左右に開きます。



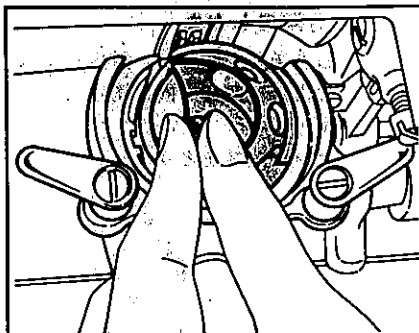
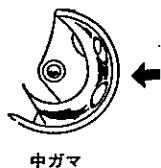
130図 大ガマフタ押エを開く

- 4 大ガマフタを開いたら、大ガマフタをとりはずします。



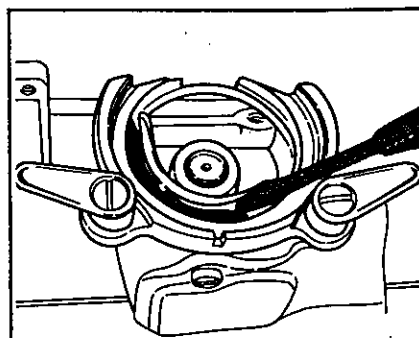
131図 大ガマフタをははずす

- 5 中ガマをははずしてとりだします。



132図 中ガマをとりだす

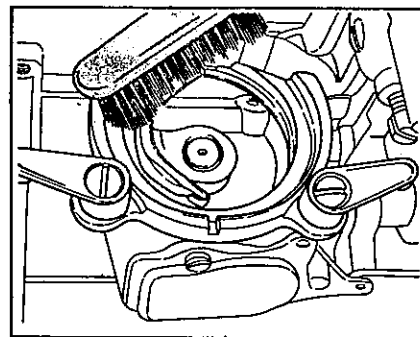
- 6 次に赤色（ユリア樹脂製）のクリーナーを小ネジまわしなどで、かるくつついてははずします。これで分解が全部できました。



133図 クリーナーをははずす

### ♥ カマのお掃除のしかた

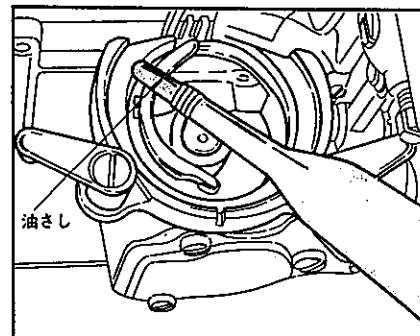
- 1 大ガマの内側を歯ブラシなどできれいに掃除します。クリーナー押エを移動させ、そのところも掃除してください。



134図 大ガマの内側をきれいにする

- 2 お掃除がすんだら、この部分にミシン油を1～2滴します。

※注油が多すぎると、ボビンや糸が油で汚れますから、ごく少量（1～2滴）にとどめてください。



135図 注油は1～2滴、この部分へする

### ♥ カマの組立てかた

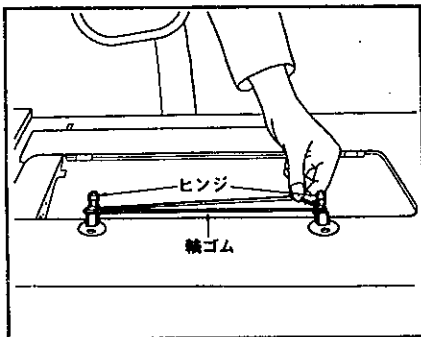
掃除や注油がすんだら、分解したときの逆の順序で組立てます。



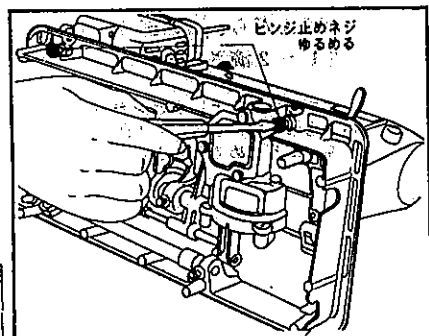
## 頭部のとりつけかた

工場から直送されるミシンに限り、頭部とテーブルを別々にお届けします。この場合次の方法でセットしてください。

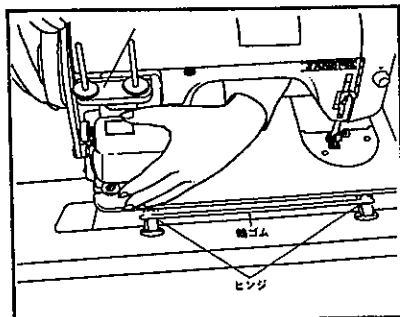
- 1 テーブルの天板を開き、中板に付いている2個のヒンジを立て、たおれないようゴム輪などをかけて固定します。(136図)
- 2 頭部についているヒンジ止めネジをヒンジが十分入るようゆるめます。(137図)
- 3 頭部をしっかりとかがえて、頭部ベッドの前端の穴へ、2個のヒンジをさしこみます。(138図)
- 4 テーブルヒンジがしっかり入ったら、ヒンジ止めネジを固く締めつけて、頭部を前板の上にすえます。(139図)



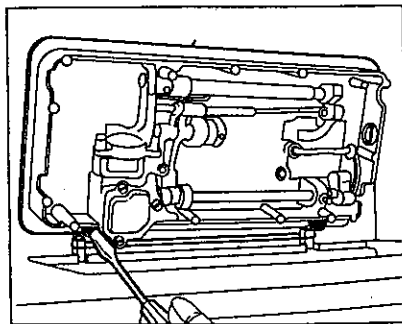
136図 テーブルのヒンジを立てゴム輪でとめる



137図 必ずヒンジ止めネジをゆるめてから……



138図 頭部をかかえ穴にヒンジをさしこむ



139図 ベッドのヒンジ止めネジをしめる

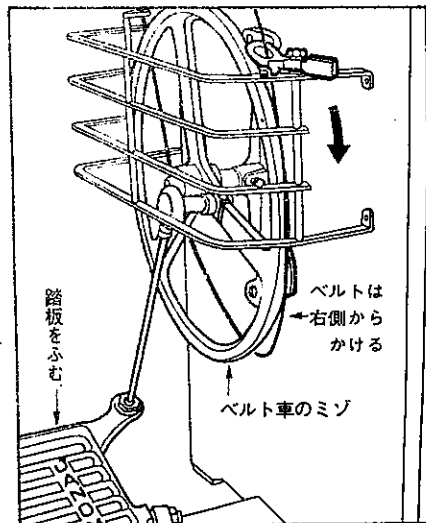


## ベルトのかけはずし (足踏式)

足踏ミシンのベルトは次のようにすれば簡単にかけはずしできます。

### ♥ベルトをかけるには……

- 1 ベルト車の右側にベルトをたらし
- 2 ハズミ車のミゾへベルトをかけ、
- 3 ベルト車のミゾにベルトをかけ、手前にまわるように踏板を踏めばすぐかかります。(140図)



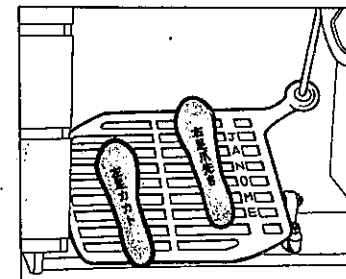
140図 ベルトのかけかた

### ♥ベルトをはずすには……

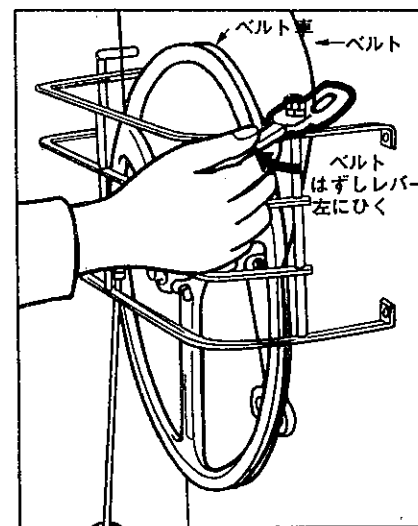
- 1 踏板を踏んでベルト車を手前にまわしながら
- 2 ベルトはずしレバーを左側に引くとしぜんにはずれます。(141図)

### ♥踏板の踏みかた……

- 1 踏板に軽く足をのせ (142図)
- 2 ハズミ車を右手で軽く手前にまわすと踏板が動きますから、右足の爪先と左足のカカトに力をいれて交互に踏んでください。



142図 正しい踏板の足の位置



141図 ベルトのはずしかた



## モーターのとりつけかた(電動式)

準備の補足

### ♥モーターの配線は……

- 1 接続片フタしめネジをゆるめて接続片フタをとりはずし
- 2 モーターからでてのコードの先端(輪形状)は記号LMとMの接続片に合わせ、
- 3 照明用ランプコードは記号LMとLの接続片に合わせ、それぞれ接続片しめネジでしめつけます。

※記号LMの接続片には2本のコードがつくため長いネジを使います。

- 4 モーターコードと照明ランプコードの結線ができたなら、接続片フタをモーターにとりつけます。(143図)

### ♥ミシン頭部にとりつけるには…

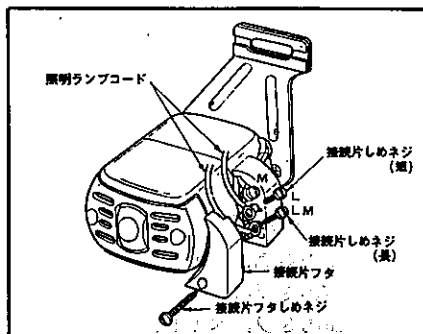
- 5 ハズミ車のミゾとモーターのプーリーのミゾにベルトをかけます。
- 6 ハズミ車の下にある縦凸ミゾにモーター取付板の縦凹ミゾを合わせ、モーターとりつけネジに座金を入れ、かりにしめつけておきます。

(144図)

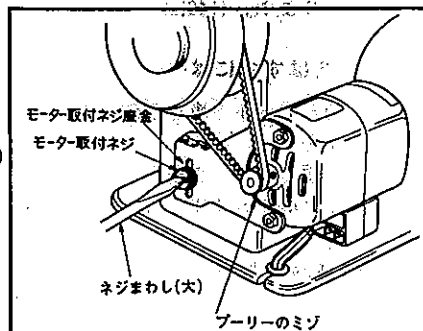
### ♥ベルトの張り具合をしらべて…

- 7 モーターとりつけ板の位置を上下しながら、ベルトの張り具合をしらべて、モーターとりつけネジを固くしめつけます。

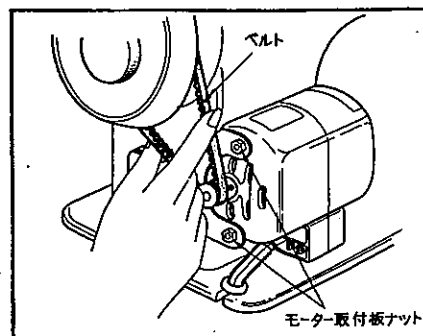
※モーターベルトはきつく張りすぎないよう、またゆるすぎてベルトがスリッ滑しないようにします。



143図 照明ランプコードの配線のしかた



144図 ミシン頭部にモーターをとりつける



145図 ベルトの張り具合を調整する



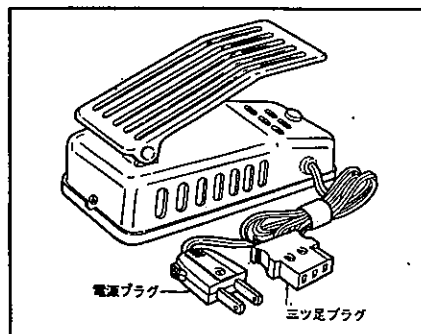
## コントローラーのあつかいかた(電動式)

準備の補足

コントローラーは電源スイッチと速さを調節するはたらきをします。

- 1 まずコントローラーを足で踏みやすい位置におき、ミシンと電源コンセントにつなぎます。

※テーブル式は右下の引出しに入っていてミシンにつながっています。



146図 コントローラー各部分のなまえ

- 2 足のかけ方は147図のように手前から踏むようにします。

※反対方向から踏むと足の力はいりすぎ調節がしにくくなります。

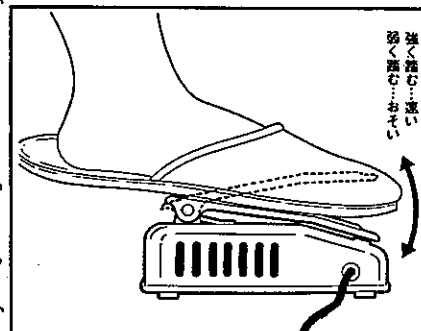
- 3 縫いはじめは大きな力が必要です。からふつうよりやや強く踏み込みます。

※右手でかるくハズミ車を手前にまわすとスムーズに動きはじめます。

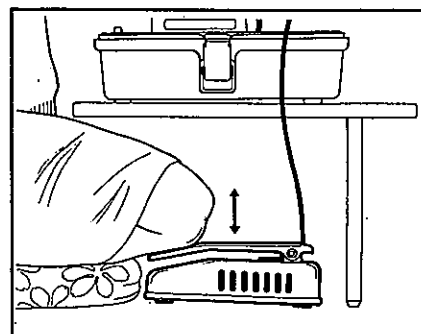
- 4 コントローラーは強く踏めば速く、弱く踏めば遅くなります。踏みかげんで好みの速さに調節します。

(147図)

- 5 和室などですわって縫うときは、ヒザで踏んで調節します。(148図)



147図 正しい踏みかたと調節のしかた



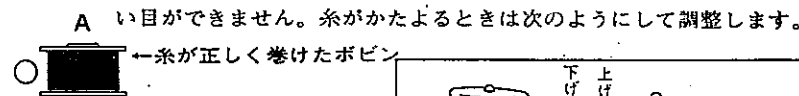
148図 すわって縫うときの踏みかた



正しい操作を知らないで使ったり、むりな操作で縫調子を悪くしてしまったらこの本をよくごらんになって、原因をたしかめ、調整してください。

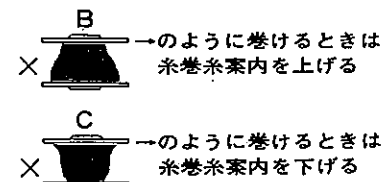
## ◆ボビンに正しく糸が巻けないときは…

ボビンに糸が平均に巻けていないと、糸が切れたり、きれいな縫い目ができません。糸がかたよるときは次のようにして調整します。



### ◆正しく巻けないときは

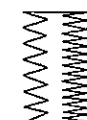
- 1 面板を開き、149図のようにネジをゆるめ
- 2 糸巻糸案内を少し(約1mmぐらい)上または下にうごかして
- 3 ネジをしめつけます。



149図BとCのように巻けたときの調整のしかた

## ◆ボタンホールの調整は……

ボタン穴かがりの縫い目が右と左で荒さがちがうときは、次のようにして調整してください。※この調整はなるべくジャンメ直営支店へお申しつけください。



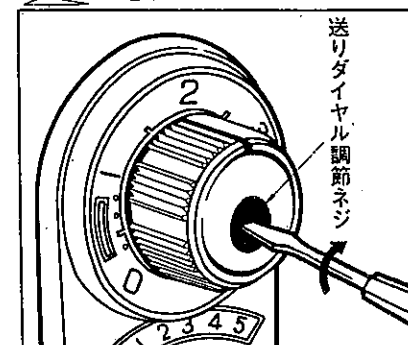
### ◆左側が荒いときは

送りダイヤル調節ネジを右へまわしてください。

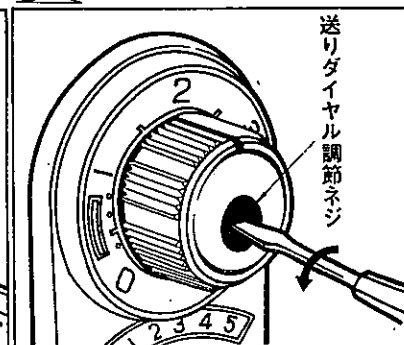


### ◆右側が荒いときは

送りダイヤル調節ネジを左へまわしてください。



150図 左側の荒いときは右へまわす

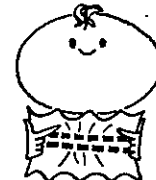
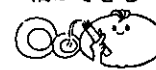


151図 右側の荒いときは左へまわす

# ◆ ミシンの具合が悪くなった原因となおしかた

具合の悪い場合	その原因	なおしかた
<b>◆音が高い</b> <b>回転が重い</b> 	①油がきれている ②よくない油を使っている ③カマの部分に糸くずが巻きこまれている ④送り歯にゴミがたまっている ⑤モーター内部の故障	57～58ページ参照 ジャノメミシン油を 61～63ページ参照 60ページ参照 直営支店へご連絡を
<b>◆上糸が切れる</b> 	①上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている ②上糸の調子が強すぎる ③針が曲っていたり、針先がにぶっている ④針のとりつけかたがまちがっている ⑤針穴にキズがついている ⑥縫い終ったとき、布を向う側にひがなかった ⑦糸が針にくらべて太すぎる、または細すぎる	16～17ページ参照 22ページ参照 針をとりかえる 11ページ参照 紙ヤスリで磨くか 針板をどりかえる 25ページ参照 10ページ参照
<b>◆下糸が切れる</b> 	①ボビンケースに下糸の通しかたが、まちがっている ②ボビンケースの調子バネを強くしめすぎている ③ボビンケースの中ガマやバネの中に、ゴミがたまっている ④ボビンの糸の巻きかたががたよっている	14ページ参照 22ページ参照 ボビンケースを分解するひいときは直営支店へ 69ページ参照
<b>◆針が折れる</b> 	①針のとりつけかたがまちがっている ②針が曲っている ③針止めネジのとりつけがゆるんでいる ④上糸の調子がとくに強すぎる ⑤縫い終ったとき、向う側に布を引かなかった ⑥布地にくらべ針が細すぎる ⑦布地に針がささっているときに、ダイヤルや振巾調節レバーなどを、むりに動かしたとき ⑧二本針使用の場合〈TWIN〉に万能ダイヤルがなっていないとき	11ページ参照 針をとりかえる 11ページ参照 22ページ参照 25ページ参照 10ページ参照 針棒を最上部にあげてから操作すること 34ページ参照

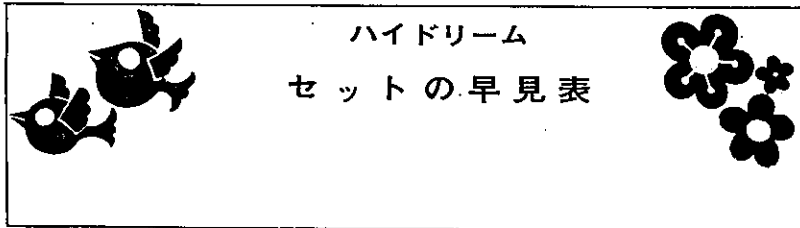
このページのようにミシンの具合が悪くなる使い方をしないことがあなたのミシンをながもちさせるヒケツですノ

具合の悪い場合	その原因	なおしかた
<b>◆縫い目がとぶ</b> 	①針のとりつけかたがまちがっている ②針が曲っている ③針に対して糸がアッてない ④上糸のかけかたがまちがっている	11ページ参照 針をとりかえる 10ページ参照 16～17ページ参照
<b>◆縫い目がしわになる</b> 	①上糸・または下糸の調子が強すぎる ②上糸・下糸のかけかたがまちがっていたり糸が必要以外のところからみついている ③布地にくらべて針が太すぎる ④布地にくらべて縫い目があらすぎる ⑤ボビンの糸の巻きかたががたよっている ※とくに薄物を縫うときは、下側に紙を入れて縫うと、美しい縫い目になる	22ページ参照 16～17ページ参照 10ページ参照 20ページ参照 69ページ参照
<b>◆縫い目に輪ができる</b> 	①上糸の調子が弱すぎる ②ボビンケースの調子バネの強さが、強すぎるか、弱すぎる ③糸にくらべて針が適当でない	22ページ参照 22ページ参照 10ページ参照
<b>◆布送りがうまくゆかない</b> 	①送り歯のところに糸くずがたまっている ②布にくらべて、ドロップツマミの位置が適当でない。	60ページ参照 21ページ参照

その他むずかしい調整や部品のとりかえは…ジャノメ直営支店へどうぞノ

※ジャノメミシンでは、全国 500 の直営支店で万全のアフターサービスをいたしております。この本にかいてある方法でも調整できないときは、どうぞ遠慮なく、お近くの支店へご連絡ください。※お問合せの際はこの本をお読みになりながらお電話くださると、係員も故障の原因や個所がわかって便利です。※お電話いただければ調整員がただちにおうかがいしますから、必要以上に分解したりなさらないでください。





# ハイドリーム セットの早見表

縫い方	押エ	カム	万能ダイヤル	送りダイヤル	振巾調節レバー	ドロップツマミ
直線縫い	直線用押エ	0	L	1~4	0	2
手動模様縫い	ジグザグ押エ	0	L・M・R	0.25~0.5	0~5	2
自動模様縫い	ジグザグ押エ	1~12*	L	0.25~0.5	3~5	2
二本針縫い	ジグザグ押エ	1~12*	TWIN	0.25~0.5	2	2
ボタンホール	ボタンホール押エ	0	1~2-3-2	0.3~0.7	3~5	2
ボタンつけ	ボタンつけ押エ	0	L	0	0~2~5	0
アップリケ	アップリケ押エ	0	L	0.25~4	1~5	2
ひもつけ	ひもつけ押エ	0	L	1~3	1~3	2
三ッ巻縫い	三ッ巻	0	L	1~4	0	2
定規	直線用押エまたはジグザグ押エ	0	L	1~4	0~5	2
ファスナーつけ	フチ縫い押エ	0	L	1~4	0	2
キルティング	フチ縫い+キルター定規	0	L・M	1~4	0	2
ししゅう縫い	押エはとりはずす	0	L	0	0~5	0
盲縫い(くけ縫い)	ジグザグ押エ	12	L	1~2	2~3	2
ジャージー縫い	ジグザグ押エ	11	L	0.5~2	2~3	2
フラワーステッチ	フラワーステッチ	0と1~12	L	0	3~5	0

※《ハイドリーム》使いかたの手びきをとりまとめますと、上記のようなセットでいろいろ楽しい縫い方ができます。

※ミシンについている早見盤をご利用になると、なお迷わずにごくやさしくセットすることができます。

※10番カムは送りダイヤルを「1.0~1.5」に合せて下さい。



## あなたとご家族の寸法表



おなまえ 採寸								
胸 囲 (B)								
胴 囲 (W)								
腰 囲 (H)								
着 丈								
胸 巾								
背 巾								
肩 巾								
背 丈								
腰 丈								
スカート丈								
スラックス丈								
腕まわり								
手首まわり								
首まわり								

※あなたやご家族の寸法を、この表に記入しておきましょう。ドレスを製図するときいちいち計らなくてすみませし、ミシンのそばにいつもあるので便利です。

◆あなたのミシンの取扱直営支店は…